

日 教 庶 第 2 4 4 号

令和6年(2024年)6月27日

教育委員 各位

日野市教育委員会

教育長 堀川 拓郎

令和6年度第1回教育委員会臨時会の開催について

下記のとおり令和6年度第1回教育委員会臨時会を開催します。定刻までに御参集ください。

記

開催日時

令和6年(2024年)6月30日(日) 午後2時

開催場所

子ども包括支援センターみらいく 3階多目的室

案件

議案

第17号 市立幼稚園の適正配置の基本方針及び閉園計画(修正素案)に関するパブリックコメントについて

第18号 日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針について

第19号 市立幼稚園閉園計画について

第20号 教育委員会職員の分限休職の専決処分について

請願

第6-4号 『日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針』および『市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)』を確定しないことを求める請願

議案第17号

市立幼稚園の適正配置の基本方針及び閉園計画（修正素案）に関するパブリックコメントについて

上記議案を提出する。

令和6年6月30日 提出

日野市教育委員会
教育長 堀川 拓郎

《提案理由》

市立幼稚園の適正配置の基本方針及び閉園計画（修正素案）に関するパブリックコメントに対する回答を決定するものです。

「市立幼稚園の適正配置に関する基本方針及び閉園計画」について

1. 「修正素案」保護者説明会

(1)日時:令和6年4月17日(水)午前9時20分～11時

(2)会場:第四幼稚園ホール

(3)保護者:12名

(4)主な質疑等

東西格差問題

五幼閉園の時、四幼の老朽化がわかっていなかったのか。

幼稚園を東西でバランスよく残すことは、一度も考えなかったのか。無計画すぎる。

→急速に進む少子化等の社会情勢等を踏まえ、適宜、日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会に諮問、答申を経て、適正配置を検討。

進め方

2月と3月に入って、保護者との話し合いの回数が増えた。

詳しい話や信頼関係なく、いきなり教育委員会定例会の数日前に聞かされ、意見のすり合わせもなかった。保護者の気持ちを汲んで欲しかった。

「多様な他者との機会の創出事業」「認定こども園」

①公立幼稚園の良さを維持していくために、どのような点で有用性を図ったのか。

→公立幼稚園の先生を置き、先生の指導のもと、サービス提供を考えている。

幼稚園、保育園のそれぞれの良さを活かせる運営を行っていく。

②保育園の施設も見えていないので、すぐには喜べない。耐震化はしているのか。

→耐震化している。四幼の広さと比較すると狭いといった印象を受けると思うが、一方でより多くの友達と遊べるメリットがある。見学の際は、声をかけていただきたい。

耐震・建替

①四幼を取り壊す費用はいくらか。耐震は不可能なのか。

→解体費用は5千万円。建て替えは2億3千万円。耐震はできなくはない。

②耐震できると初めて聞いた。老朽化の問題がなくなるので、もう一度見直しをしてほしい。

→耐震については技術的な事としての話。今後、公共施設管理計画の中で、耐震はしない。

まとめ

四幼跡地活用:ご意見はしっかり受け止める。

耐震:相当の資源の投資が必要。その間、園も使えない。人数との関係でオーバースペック。

東西格差:東側に幼稚園機能を公立で残す案となっている。保護者には難しい対応を迫ることについてはお詫びする。

今後:これからも子ども達のために真摯に向き合っていく。

2.「修正素案」市民説明会

(1)日時:令和6年4月20日(土)午前10時～11時30分

(2)会場:市役所505会議室(ウェブ同時配信)

(3)市民等:11名

(4)主な質疑等

認定こども園

保育園までの道は、狭い道で、車も比較的多く、高低差もある安全でない道で、保護者によっては2・3人自転車に乗せて通うこととなり、「無理なく通える範囲」ではない。

→全員の家から近いというのは現実的には難しいことはご理解いただきたい。

→四小地域でも定員を満たしていない保育園がある。保育の必要性があり、四小地域の保育園を選びたいという場合には、丁寧に対応する。

私立幼稚園の特別な配慮を要する子どもの受入れ

私立幼稚園への補助金があったとしても、公立幼稚園と同等の教育が受けられるか。

→従来の補助金を拡充することに合わせ、特別な配慮を要する子どもに対しての支援の指導、公立の良いところを紹介等、公立の質の維持が私立幼稚園でもできるようにする。

→既に私立・公立幼稚園で「インクルーシブな保育・教育に関する研修会」を実施しており、今年度も実施する。

閉園を決めるのは早い

①検討段階のものもある中で、閉園を決めるのは早い。

→閉園時期が長引くほど、集団性の課題が大きくなる。また、施設の老朽化の問題もある。適配委員会の答申を受けて素案を作り、パブリックコメントをして、1年延長をした修正素案を議論をしている中で、簡単に延期・中止とはならない。

②日野市らしさを誇っている幼児教育をやっている場所を無くすのは日野市の宝物を無くすようなもの。ぜひこの問題はそのまま打ち切らずに、どうしたらいいのか考えてほしい。

→将来にわたって継続的に幼児教育・保育を提供するためにどうあるべきか、市民の皆様の意見を聞きながら将来に向けて引き続き検討していきたい。

少子化

①このような施策を続けていくと今後も人口は減っていく。この施策が市として少子化対策につながっていくと思うのか。

→当面の支援策と中長期的な将来に向けた地域全体の在り方についての意見と受け止める。幼児人口は予想をはるかに上回るスピードで減少しており、市全体として幼児教育についてもう少しスピードアップして考えていかないといけない。中長期的な話し合いは今後必要だと考えていて、幅広い市民の意見を伺いながら、どういうものを形作っていくのかを考えていきたい。

②市全体として少子化対策にはどう取り組んできたのか。

→子育て支援については、子ども・子育て支援のための計画がある。課題についても多様になっていて、特別な配慮が必要な子ども、外国人、子どもの持つ権利をどう守っていくのか等幅広いため、日野市の課題を解決できる計画を考えていきたい。

新しい複合施設の可能性

新たに幼稚園を作るのがオーバースペックならば、東側に複合施設のような地域の人々が安心して子どもを預けられる場所を作ることができれば、日野市として少子化のターニングポイントになりうるチャンスだと思う。

→将来の話については、必ずしも公立幼稚園というわけではなく、様々な子育て施設を含めてどのような機能が求められているのか等、全体で考えていきたい。また、保育園は働いていないと入園できないのかという話もあるが、国も、就労に関わらず子どもを地域全体で育てる仕組みが基本的な考え方なので、市としてももう少し幅の広い目線で考えていきたい。

意見

地域で安心して通える場所ができるまで、市民が納得できる具体的な対応ができるまで、どうか四幼稚園は閉園しないでほしい。

3.パブリックコメント

- (1)実施時期 令和6年4月15日から令和6年5月16日まで
- (2)周知方法 広報ひの4月号、市ホームページ、第四幼稚園保護者説明会、市民説明会
- (3)修正素案の閲覧場所 学務課、七生支所、豊田駅連絡所、市内各図書館、市ホームページ
- (4)ご意見の件数 30通、92件

4.「修正素案」パブリックコメント後の動き

■6月13日 市HP「30日教育委員会臨時会にて、基本方針等について議題」を公表

→臨時会前にパブリックコメントの回答を公表すべき、

内容不明で請願を出せない等の意見

→公表の方向性で準備

■19日：市HP「パブリックコメント回答」(30人、92件)を公表

但し、確定及びパブリックコメントの意見を基本方針等はどう反映させるかは教育委員会臨時会にて審議して決定。

ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の適正配置に関する基本方針及び閉園計画(修正素案)のパブリックコメント) (案)

No.	ご意見 (基本的に 全文 原文ママ。一部 改行、フォント等 の装飾省略、図表の省略 等がございます。 また、「回答」欄の内容が対応するご意見の箇所に項番を追加しています。)	教育委員会の考え方	計画等への反映
1	4月20日の説明会に現地に参加しました。質問時間が少なくなってしまったので、こちらに書かせていただきます。 個人的には示された現状のデータから見ると、第四幼稚園の廃園は仕方がないかなと思います。しかし、それは日本の人口が減っていること、および少子化が進展していることを仕方がないというのと同じだと思います。 幼児人口の減少に応じた行政サービスの縮小を行えば、さらなる少子化、そしてそれによる人口減少は避けられません。しかし、子どもを生み育てようと思っている人がいないわけではなく、子育てに適した環境を欲しているはずです。 兵庫県明石市の例のように、子育て政策が手厚ければ、その自治体に子育て世代が転居したり、複数の子どもを生み・育てることになるとと思います。日野市も本気で現状を変えるような政策を発信していただくことを望みます。 1-① 今回の基本方針に対しては、日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会、および日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会を組織し、議論し、報告書を取りまとめています。いずれにも学識経験者が入っています。配置検討委員会には教育学者が二人入っていますが、適正配置の検討ですから、一人は施設配置を専門とするような研究者を入れるべきだと思います。私は地理学を専攻とする研究者でもあります。地理学では人口データなどを用い、GISなどの技術で施設の最適配置の研究蓄積があります。 保育の在り方検討会の学術経験者は教育学・保育学の専門家で適切だとは思いますが、公立保育園のある日野市の特性を活かした保育の在り方を検討するという目的もありますから、行政学などの専門家も必要ではないでしょうか？ 日野市らしいといえながら、近隣他市との比較ありませんし、日野市内部の施設配置計画の話であるにもかかわらず、配布された資料には幼稚園の配置図すらありませんでした。まずは、日野市内の人口データを整理し、どの地区で幼児人口があるのか、子育て世代が多いのかなどを認識したうえで配置計画を考えるべきではないでしょうか？ 1-②	1-① 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 将来にわたり、持続可能な公共サービスを提供するためには、社会情勢を踏まえ、人口規模に応じた適正な公共サービスのあり方を考える必要があります。 また、日野市では、人口規模に応じた単なる縮小ではなく、複合化・共用化などにより、施設・機能の価値を高める「縮充」の考え方に基づく公共サービスのあり方を検討しています。 未就学児人口の減少や教育・保育ニーズの推移、多様なニーズへの対応、幼稚園機能の確保などの諸課題を踏まえ、認定こども園の設置を計画に位置付けております。 1-② 日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会は条例により設置されており、委員構成も条例に規定されております。委員の選考は状況に応じて最適と思われる方に委嘱しております。また、市民委員については、公募要領に基づき選考を行っております。今後の委員選考の際の貴重なお意見として、参考にさせていただきます。 また、地域ごとの人口については、市で保有しているデータを基に把握しており、第四幼稚園のある地域が市内で突出して、幼児人口が増加しているという状況ではございません。 少子化が急速に進んでおり、公立幼稚園に限らず、他の教育・保育施設も含めて、市全体で検討してまいります。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
2	【日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針(修正素案)】 ①「公立幼稚園は欠くことのできないもの」と言いながら、幼児人口の減少、園児1人当たりにかかる公費負担を理由に、日野市の東側地域から公立幼稚園をなくすことは、全く納得できません。第4幼稚園のある地域は、私立幼稚園もなく、第4幼稚園の存続は不可欠です。 ②少子化をくい止め安心して子供を産み育てられる環境と条件をつくることは日野市の根本的な課題であり、多様な子育てのニーズに応えられる幼児教育・保育の環境を豊かに提供することは日野市の責任です。東部地域は、今後さらに子育て世代が流入する地域でもあり、障害児も受け入れる公立幼稚園の存続は欠かせません。 2-① 【市立幼稚園閉園計画(修正素案)(第四幼稚園)】 ①「保育園型認定こども園」を設置すると言いながら、その形態も教育内容も示していないのはまったく無責任です。設置されるまでの間の「多様な他者への関わりの機会の創出事業」の活用については、教育施設をつくるのではなく、他の幼稚園や保育園の一角を利用するという間借りに過ぎず、およそ公立幼稚園の教育的役割を担うものとは言えません。こうした言葉のごまかしで、第4幼稚園を廃園にするやり方は、保護者や子どもを愚弄するもので許せません。 2-② ②日野市らしい幼児教育の具現化を目指し取りくむとして、「公立幼稚園のあり方」が報告書抜粋で示されていますが、このことが閉園に伴い実施する支援策としてどう生かそうとしているのか、全く説明がありません。障害のある幼児の行き場がなくなることがないようにするとも書かれていますが、第4幼稚園を廃止して東部地域で障害のある子に幼児教育の場をどう保障していくのか、日野市としての具体策を示すべきです。 2-③	2-① 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会(以下、「在り方検討委員会」という。)では、「公立幼稚園の在り方など 日野市らしい幼児教育・保育の実現に向けた方策に関すること」に関する議論の中で公立幼稚園の再編により、市内東側から公立幼稚園がなくなるという距離的な問題、幼稚園教育の質の部分、公立幼稚園は、特別な配慮を必要とするお子さんの行き場の一つになっているという視点、これらについて市全体で維持していくためにどのような策が必要かという議論がされました。 「行き場のない」については距離的な問題や幼稚園教育、配慮を必要とする子どもの受け皿といった視点について、何もサービスや支援が受けられない状況にあることをいうものだと思えています。 閉園計画の修正素案にお示しした支援策も、この点に留意して、複数の策をお示しすることで、行き場のない子どもが生じないように配慮した内容となっております。 2-② 保育所は、保護者の就労等の事情により家庭で養育できない子を保育する養護・教育を一体的に行う施設であり、幼稚園は、満3歳以上の就学前の子に対し教育を行う施設として、その位置付けが区別されてきたところ、保護者の就労の有無で利用する施設が限定されてしまうことや、子育てについて不安を感じている保護者への支援が不足していることなどの問題から、これまでの保育所と幼稚園の枠組みを超えた新たな仕組みが求められ、認定こども園制度が発足しました。認定こども園とは、教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設です。保育所型認定こども園の設置を検討する中で、日野市立第四幼稚園の閉園による支援策の1つとして、多様な他者への関わりの機会の創出事業を検討しています。この事業は保育園の一角を間借りして行うものではなく、子どもたちは集団生活を共にします。また、公立幼稚園から幼稚園教諭の配置も検討しています。事業の実施にあたっては、利用者の声を聴きながら丁寧に進めてまいりたいと考えております。 4月に実施した第四幼稚園保護者説明会、市民説明会において、より具体的な内容についてご説明させていただきますました。お伝えできる内容については最新の情報を適時公表してまいります。 2-③	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)①に設置場所を「日野市立みさわ保育園」を候補とする等を追記。
3	水害の明記がなくなった事はよいと思います(水害地域でも教育等公共サービスは必要なため) 第四幼稚園閉鎖後の通園児のガソリン代やタクシー代補助は年代が当たらない子供には不平等に感じました。 私立幼稚園に配慮が必要な児童を受け入れてもらう、これは良いとおもいましたが私立幼稚園側のメリットや対応策などまちまちな為あまりすすまないのではないかと思います。あくまでも私立は園児を選べますので。 就園相談は良いと思います。第一子の親は何も知識がないので相談できるところを求めています。 認定こども園が東側に創設する予定との事で安心しました。誰ひとり取り残されない事を願います。 3-① 末っ子を第七幼稚園検討しています。多摩平なので無理なく通えますが(第一幼稚園が残っていて欲しかったですが…)万願寺エリアだったら。と思う人とごとはありません。 公立は誰でも行けて、引越をした人 外国のかた 障害があり加配が必要な人 など安心して通える場所です。 色がはっきりとあり園児を選ぶ私立も多く。 私の長男は知的障害があり選択肢がかなり少なく、私立の〇〇幼稚園には断られたとかはっきりと言わないけれど難色を示されたなど友人からいくつも聞きました。宗教系幼稚園は排他的ではないものの、加配はつけられないとはブレで相談した時に言われました。結果公立かエールしか選択肢はありませんでした。 (特定の幼稚園に関する記述があったため、一部削除いたしました。) 公立は伸び伸びとたくさん遊び、ちゃんと季節も感じて子供らしく健全に過ごせてたくさん経験ができて良いなあと思っています。3年過ごせる公立幼稚園のような場所が1箇所でもあれば…と感じています。 第四幼稚園跡地も、子供たちの居場所になってくれたらと思います。 3-②	3-① 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 支援策については、第四幼稚園が閉園となった場合に、行き場のない子が生じないように、令和7年度に4歳児である幼児が就園先を確保するための移動支援等を実施するなど包括的に実施する案としております。支援策の期間については、他の地域の保護者や児童が置かれている環境とのバランス・公平性等を考慮しながら講じていく必要が有ると考えています。 3-② 公立幼稚園の3年保育については、現在、一部の幼稚園で、保護者の就労の有無を問わず、子どもを定期的に預かる事業を検討しているところ です。 第四幼稚園が閉園となった場合、住宅が密集しており道路が狭いなどの条件から、跡地を活用して新たな公共施設を設置するには課題があると現状では考えています。関連部署と連携し、子ども達のためになるような跡地活用等について今後、検討を進めていきたいと考えています。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)⑤に移動支援の対象及び内容を追記。
4	日野市に住んで12年目になります。 田舎過ぎず都会過ぎずな環境を気に入っております。 昨今、不登校児や発達障害、そこまでではなくとも少し繊細な児童へのケアが進んできていると思います。 ステップ教室も、ある学校とない学校がありましたが、今は日野市の学校全部にできたそうですね。 今年からひまわり教室、けやき教室と別室指導も増えました。 集団での教育が困難な児童が増えているのをケアするためにとても手厚い制度だと思います。 成長が遅かったり、デリケートだという事は弾かれる存在ではなく 少し別のアプローチでケアすれば進級に問題にはならないという事が広まったという事です。 公立幼稚園の閉園は、その手厚いシステムの導入とは反対な計画に思えるのです。 今までの詰め込み教育をやめて、一人一人が自分にあったやり方で成長できる小学校に対して、大事な幼少期に過ごす場所も選べる必要があると思うのです。 英語教育が小学生からになり、他の教科も習う単元が昔より低年齢化してると小学校の先生が仰っていました。私立の幼稚園はそれに力を入れて教育に特化させている所もあります。 では 小学校卒業時の知能は変わらないけれど幼少期は少し遅めの児童(発達障害など)は弾かれてしまいませんか？ 子供の成長はみんな一律ではないと世の中がケアする傾向にあるのに 幼稚園は選べない。せっかく日野市はあるのに無くしてしまっているのでしょうか。 4-① 四小地区は畑や空き地をどんどん潰して家がたくさん建ち始めています。 12年前とはかなり変わってきています。これから移り住んでくる家族はどんどん増えるでしょう。 「子育てしやすい場所」というのはとても魅力的で誇れる事です。 日野市を住みやすい場所、住みたい場所にしていって欲しいと思います。 4-②	4-① 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 特別な配慮を必要とするお子さんの受入は、公立幼稚園だけでなく、私立幼稚園においても、多くのお子さんを受け入れており、その人数は増加しております。 増加はしているものの、私立幼稚園の配慮を要するお子さんの受け入れを望む声を踏まえまして、令和6年度から私立幼稚園への補助の拡充を図っております。具体的には、特別な配慮を要するお子さんを受け入れた場合、東京都から補助を受けることが出来ますが、補助対象外となる年度途中の入園児については、市が単独で追加補助をいたします。 4-② 令和6年4月1日時点の第四小学校の学区区域の人口を見ますと、0歳が90人、1歳が96人、2歳が72人、3歳が85人、4歳が87人、5歳が95人となっております。小学生以上の人口は平均して100人以上(6歳94人、7歳119人、8歳102人、9歳109人、10歳113人、11歳115人)あり、過去10年間で増減はあるものの、傾向としては日野市全域はもとより、第四幼稚園の地域でも少子化が進んでいる状況ととらえております。 また、大規模マンションなどにより未就学児人口の増が予想されていた区域については、一時的な未就学児人口の増はあったものの、数年前までの就学児年齢を追い越すような人口増には至っていないことから、地域のお子さんの数がこれまで以上に増えていく状況は、生まれにくいものと考えています。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。

ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の適正配置に関する基本方針及び閉園計画(修正素案)のパブリックコメント)

(案)

No.	ご意見 (基本的に 全文 原文ママ。一部 改行、フォント等 の装飾省略、図表の省略 等がございます。 また、「回答」欄の内容が対応するご意見の箇所に項番を追加しています。)	教育委員会の考え方	計画等への反映
5	中味のとっても良い幼稚だと聞いてます。 今までと変わらずの1人1人大切にしてきた内容であってほしいと思います。 行き場のなくなる子供達を出してほしくありません。	貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 支援策については、第四幼稚園が閉園となった場合に、行き場のない子が生じないように、 ①市内東側に保育所型認定こども園を設置 （保育所型認定こども園が設置されるまでの間は、東京都が実施する「多様な他者との関わりの機会の創出事業」を活用して教育枠を確保） ②市内東側に特別な配慮を必要とする幼児の相談機能を創設 ③私立幼稚園における特別な配慮を必要とする幼児受け入れ拡充のための支援 ④就園相談機能(コンシェルジュ機能)の強化 ⑤令和7年度に4歳児である幼児が通う園を確保するための移動支援等 等を包括的に実施する案としております。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)①に設置場所を「日野市立みさわ保育園」を候補とする等を追記。 6(1)⑤に移動支援の対象及び内容を追記。
6	上記幼稚園閉園計画を拝読し、 ・幼稚園の数の減少に反対します。障害のある子供さんの受け入れ先は公的な責任でお願いしたい。 ・建て替え存続は多摩川に近くハザードマップ(直近のもの)で洪水の発災エリアにある。なので、この場所では不適当かと思います。 土地周辺に居をかまえ、台風のために第四小学校は湖のような校庭に。第四幼稚園はそこまでの災害に至ってないが…見えていますと怖いです。水害への警戒が甘いのでは？と思うのです。 そういう“エリア”に貴女は住んでいるのよね！と住んでいる人を攻めキする親御さんもいるんですが…、困ってしまう。	貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 特別な配慮を必要とするお子さんの受入は、公立幼稚園をはじめすべての幼児・教育施設が現に担っているものと考えます。支援策については、第四幼稚園が閉園となった場合に、行き場のない子が生じないように、市内東側への幼稚園枠の設置や、令和7年度に4歳児である幼児が園を確保するための移動支援等を実施することと合わせ、特別な配慮を要するお子さんの受入に関する私立幼稚園への補助の拡充や、入園に関する相談窓口としてコンシェルジュ機能の強化など、包括的に実施する案としております。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)⑤に移動支援の対象及び内容を追記。
7	* 前回はそうでしたが、今回も閉園が決定している前提の素案なのはなぜでしょうか？ 『あくまでも素案なので決定ではない』と、話し合いでなんとも言われていますが、今回の修正素案も閉園がすでに決定している上での内容なのはなぜでしょうか？ * 市内東側に保育所型認定こども園を設置とありますが、場所は決定しているのでしょうか？四幼が無くなった場合、となりの四小周辺には幼稚園がなくなってしまう長らく行ってきた交流ができなくなってしまいます。四小の学区圏内でない東側に設置されても意味がないと思います。 7-① * 今年度の入園児で、二幼は0人とうわさで聞きました。四幼は少人数ではあるがまだ需要があります。どうして二幼ではなく四幼が閉園するのでしょうか？建物の老朽化以外で理由があるのでしょうか？ 7-②	7-① お示しているのは「修正素案」であり決定事項ではありませんが、第四幼稚園の保護者説明会や住民説明会、パブリックコメントなどを経て意見をいただきましたので、その内容を踏まえた「基本方針」及び「閉園計画」を教育委員会にて策定します。 「基本方針」や「閉園計画」が教育委員会で決定された場合には、その後、市議会に「日野市立学校 設置条例」の一部改正として上程することとなります。 市内東側の保育所型認定こども園の設置については、未就学児人口の減少と多様なニーズへの対応に向けて、市の保育サービスの中長期的な視点で必要性があると考えております。設置場所については関係者との調整状況等を踏まえて公表してまいります。 7-② 今年度の第二幼稚園の入園児数は4人です。第四幼稚園と同様に在園児数は減少しており、集団性の確保が困難な状況にあり、両園共通の課題となっております。修正素案に記載のとおり、公立幼稚園の入園希望者数の減少や、園舎の老朽化といった状況を踏まえ、第四幼稚園を閉園する方針となっております。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)①に設置場所を「日野市立みさわ保育園」を候補とする等を追記。
8	【支援策①】市内東側に保育所型認定こども園を設置について 第四幼稚園の代替案となりうる立地ではなく、乳幼児を抱えるご家庭への配慮に欠け現実的ではない。また、定員も少ないのであれば、四幼地区ではない住民で利用者が占めてしまうことも考えられる。建物も既存の古いものであるのであれば、理想的な環境とは言い難いものではなからうか。 8-① 【支援策②】市内東側に特別な配慮を必要とする幼児の相談機能を創設について 実際には児童館に相談機能を持たせるだけの内容であるとすれば、今回の閉園に伴う支援とは言えない内容である。児童館勤務職員に問題を丸投げしただけで解決策を提示できるとは思えないものである。 8-② 【支援策③】私立幼稚園における特別な配慮を必要とする幼児受け入れ拡充のための支援について 私立幼稚園には実質どのような支援をするのか(金銭的支援なのか人材支援なのか)規定が明確でないのと、立地の問題が解決するのか未知な部分が多い。 長い目でみればプラスになろうかという支援であり、今回の閉園に伴い発生しうる問題の解決には直接的なものとは感じられない。 8-③ 【支援策④】就園相談機能(コンシェルジュ機能)の強化について 今まさにこの機能が求められているのであって、閉園に伴う支援策ではなく、市民説明会で提示しなければならない内容を現時点でも満足に相談を受けていない現状がある。閉園に関わらず、行政がこうした部分をないがしろにしてきた事をもっと真剣に受け止める必要がある。すでに開始すべき機能。 8-④ 【支援策⑤】令和7年度に4歳児である幼児が通う園を確保するための移動支援などについて 条件に適合する転園者にガソリン代やタクシー代の支援とあるが、通園バスを運行することは出来ない物か？第二幼稚園第7幼稚園周辺の道幅や周辺道路の様子を認知してはいないが、車寄せや駐車場が十分に確保できるのだろうか。 登園降園の時間帯に車両が集中し、もちろん自転車利用の車両も歩行者も集中する。ましてや幼い園児たちが利用する幼稚園でこうした車両登園が事故や道路混雑を引き起こさないでいられるのか危ぶまれる。 また、近隣住民への影響は調査してのことだろうか。 マイカーやタクシーでの往復の費用負担だけで解決できるような立地であるにか、根拠のある事前調査報告をしたうえで提案をするべきである。 8-⑤ 以上のことにより、今回の閉園に伴う支援策には具体的な提案に乏しく、現実味が足りているとは到底言えない内容である。 そもそも基本方針に『少子化のため公立幼稚園を一つ減らす』という本末転倒な文言がかかげてある。 まるで『少子化』を進めるような計画(素案)に絶句する。 『少子化を理由に』のつもりで記したのだとは理解するが、根底の気持ちがいじみ出ているかのようだ。 市民の育ちと活躍とをないがしろにする市政では今後はさらなる発展など期待できなくなる。 今回の閉園だけでなく、行政が進む方向が本当にこの向きでよいのかを考える時期だと言って良いと思う。 今一度、この支援がご都合主義ではないか立ち返るべきでしょう。 8-⑥	8-① 代替案となりうる立地については、保育園の場合を参考として、通常の交通手段により、自宅から20～30分未満で登園可能な場所を候補としております。また、市内東側全体のバランスを考慮する必要があるとありますが、認定こども園設置までの間、令和7年度から多様な他者との関りの機会の創出事業の活用を検討しており、第四幼稚園を希望している現在満3歳児の幼児を対象とし、第四幼稚園地区ではない住民で利用が占められてしまうといったことは想定しておりません。 さらに、建物の老朽化については、ご指摘のとおり、第四幼稚園も含め、市内の公共施設は老朽化している施設は多いと認識しております。市内の公共施設については公共施設総合管理計画に基づき、今後、修繕や改修を行っていく予定です。園児や保護者の安全を第一に考え、改修等が必要であれば、しっかり対応してまいります。 8-② 新たに整備する児童館には相談室を設置して、児童館職員ではなく、エールの心理士が専門的な相談に応じ必要な支援につなげてまいります。これは、閉園に伴う直接の支援策ではありませんが、市内東側において、支援が必要な子どもへの公的役割の充実につながるものと考えています。 8-③ 私立幼稚園の行う心身障害児教育事業に対し、人件費、研修費、教材費等の経費を対象に補助金を交付しております。令和5年度予算額8,554千円のところ、令和6年度予算額20,791千円と前年度比約2.5倍の予算を計上しており、5月以降に入園する園児に対しても補助対象とすることで、特別な配慮を必要とする幼児について、年間を通じての受け入れができるよう、支援を拡充しました。 8-④ 相談機能の強化としては、例えば、配慮が必要なお子さんが入園先に悩んでいる場合に、園に対して児童の情報提供など、保護者と園をつなぐ仲介役のような役割を含め、特別な配慮を必要とするお子さんの入園先などに悩まれている方への窓口を充実し、行き場のない子どもが生じないよう、個別の相談に応じる体制を開始しているところ です。 令和6年度から、幼稚園長経験者の「幼児教育・保育アドバイザー」を新たに学務課に一名配置し、私立も含めた幼稚園入園に関する相談や、園との橋渡し役となっております。 8-⑤ 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 移動支援については、令和7年度に4歳児である幼児、すなわち、現時点での3歳児が通う園を確保するための支援策で、閉園時に転園することを考慮し、令和7年度に1年前倒しで実施する支援策です。具体的なニーズを踏まえて実施して参ります。 園バスについては、タクシーと比較すると費用面において高額となること、また、第四幼稚園の地域から第二幼稚園、第七幼稚園への運行となるため、乗車時間が長くなる子どもが出る可能性もあり、具体的なニーズを踏まえてになります。現時点ではタクシーが現実的な施策と考えているところです。 8-⑥ 基本方針(修正素案)では、日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会の答申を踏まえ、園舎の老朽化などを踏まえると、第四幼稚園を閉園することが妥当である、としています。ただし、素案の修正案の骨子を踏まえて、行き場のない子どもが生じないための方策を併せて実施することが必要である。としており、令和7年度末(2026年3月31日)をもって第四幼稚園を閉園とする計画を策定することとしています。 少子化対策については、市全体、国全体として、限られた資源を有効活用した効果的な方策について検討していく必要があると考えています。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)⑤に移動支援の対象及び内容を追記。

ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の適正配置に関する基本方針及び閉園計画(修正素案)のパブリックコメント)(案)

No.	ご意見 (基本的に 全文 原文ママ。一部 改行、フォント等 の装飾省略、図表の省略 等がございます。 また、「回答」欄の内容が対応するご意見の箇所に項番を追加しています。)	教育委員会の考え方	計画等への反映
9	私は第四幼稚園閉園に関して反対意見です。 甲州街道駅や万願寺駅周辺には幼稚園が少ないです。なぜこの数少ない幼稚園をなくさなければならないのか、理解に苦しみます。 幼児の減少と話していますが、日本全体が少子化の問題を抱えていて日野市の問題だけではありません。日野市の住民を増やすことを考えるとすれば、むしろ公立の幼稚園が日野市にはあって、隣の小学校とも深い結びつきがあり、園児、児童にも良い刺激になっているなど、もっと前面に良いところを出して移住定住者を増やすことを考えたほうが良いのではないですか？ 他がないから潰す！ではなく、他にないが日野市にはある！と言うほうがよくないですか？ 9-① 園舎の老朽化ということですが、耐震工事ができるという話なのでまず行ってほしいです。お金がないといわれていますが、ではこども園にするお金はどこから出ていて、どのように費用が掛かって、どのくらいの期間で出来るのか、詳しいお話を市報やホームページにも載せて教えて頂きたいです。 9-② また、工事の間に「この場所には行かせたい幼稚園や施設がないので転出したい」と考える人等がないのかも考えていただきたいです。 次の年中で入園しようと考えている人が5人しかいない。少ないというのは散々市報やホームページでも書いてあることなので、少ないのは当たり前です。むしろ5人もいて反対する意見もあって、この場所をなくすのは難しいとも一度考えてほしいです。ただただ、金がないと言われても色々市の方のほうでも問題が出ている中、納得できる市民は少ないと思います。 幼稚園に行かせたいけど、そこまでお金を掛けられない、そんな方への配慮とは…。まず保育園などが話に出てきていますが、働くことが前提の話であって働けない方などの配慮はないですよね、無理をしてでも働けということでしょうか。そしてほかの幼稚園に通うという話ですが、場所が遠いんですよね？近くに幼稚園がないのですから…。 タクシー代を出すという話ですが、それも継続されなければ意味がないです。 これから子供を産もうと考えている人のことは考慮されていませんよね。 9-③ また、園の行事などがあった場合いなど、親が向かう時の事も考えてはくれませんか。車がない人、電動の自転車ではない人、そうゆう方はどうすればよいですか？ まず、そのことが考えられないのであれば、この辺りから第2幼稚園、第7幼稚園に前後に子供を乗せ普通のアシストがない自転車に向かってみてはいかがですか？どれほど厳しいか、雨の日はどうなるのか、考えて頂きたいです。 9-④ 私個人の話になってしまいますが、上の子供が生まれとき、出産直後に呼吸、酸の数値がおかしいと病院に運ばれ、そこからすぐに手術をしました。病状としましては、肺動脈弁狭窄症ですが、もう少し複雑で肺動脈弁が機能してなくて全摘出しています。その後もカテーテルでの処置がありました。その時失敗してしまい。一時は危ない時もありました。その後も何の前兆もなく急に腸に穴が開き人工弁になり、4か月も入院生活が続きました。集中治療室にいたのは2か月です。子供がいつ死んでもおかしくない状態にありました。今は人工弁もなくなり、普通に暮らすことも出来ていますが根治はしていません。退院してからも通院は続いていますし、手術もまだ控えています。 今は私のメンタルも落ち着いていますが、しばらくは子供と離れることが出来ませんでしたし、何度も子供に謝り続けていました。ちゃんと産んであげられなくてごめんなさいと。その後は子供と少しでも離れることに不安を感じるようになりました。自分の親に預けることにも不安を感じてしまうのです。目を離したら、いなくなってしまう。と感じていました。そんなこともあり、ギリギリまで子供から離れられなかった私には市幼稚園、しかも2年保育、自分で迎えに行くことが出来る距離にあった第四幼稚園はとても助かりました。 親が園の事で手伝うこと等も多く、園に楽しく通っている様子を見ることが出来たのも、とても助かりました。 そんな幼稚園を潰す計画があるというのはとても悲しいことで、簡単に言ってほしくない問題です。 あと、説明会など場を設けてくれるのはありがたいですが、小さい子と参加する方には少し大変ですよね。 話に集中したいのに子供が気になって、話に集中することが出来ませんし、心の中で邪魔だと感じてしまう自分が嫌です。 子供の前で親が泣いていたり、強い口調が出てしまう場面に子供がいることが良いことなのでしょうか？親が喧嘩している場を子供が見ているだけでも、虐待だと聞きましたの場はどうなんでしょうか。 この話が出ている間、親の不安定な状況の子供はどう感じているか考えてしまうこともあります。 1年だけでも通わせたいなど、今後もこの地域に住む子供や親の為に反対を述べたりしている自分は、良い母親なのか。悪い母親なのか。不安になります。 ながくなってすみません。第四幼稚園がなくならないことを強く願います 9-⑤	9-① 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 公立幼稚園のPRIについては、保護者の方からもご意見をいただきながら、公立幼稚園の良さを知ってもらうための情報発信としてHPの内容のリニューアルやリーフレットの活用方法など、実現可能なことについて順次対応してまいりました。日野市は以前から幼保小連携の取組が実施されてきており、公立や私立といった運営主体や、幼稚園や保育園という運営形態にとらわれることなく、小学校との接続を大切にしています。今後も引き続き、公立幼稚園が培ってきた良さについては、市全体として生かして行きたいと考えています。 9-② 将来にわたり、持続可能な公共サービスを提供するためには、社会情勢を踏まえ、人口規模に応じた適正な公共サービスのあり方を考える必要があります。 現園舎の建替えは、費用や、必要となる施設規模の点からも難しいと考えています。 日野市では、公共施設の総量は減らしつつも、公共サービスの質や量は充実させたものにするという公共施設の「縮充」の考え方を取り入れながら、公共サービスのあり方を検討しています。 未就学児人口の減少や教育・保育ニーズの推移、多様なニーズへの対応、幼稚園機能の確保などの諸課題を踏まえ、認定こども園の設置を計画に位置付けているところです。 9-③ 相談機能の強化としては、例えば、配慮が必要なお子さんが入園先に悩んでいる場合に、園に対して児童の情報提供など、保護者と園をつなぐ仲介役のような役割を含め、特別な配慮を必要とするお子さんの入園先などに悩まれている方への窓口を充実し、行き場のない子どもが生じないよう、個別の相談に応じる体制を開始しているところです。 9-④ 令和6年度から、幼稚園長経験者の「幼児教育・保育アドバイザー」を新たに学務課に一名配置し、私立も含めた幼稚園入園に関する相談や、園との橋渡し役となっております。候補となる施設との距離や、移動手段など個別の状況により様々であると思われますので、移動の手立てを含め、相談窓口で個別にご相談に乗らせていただきたいと思います。 9-⑤ 市民説明会は、ご自宅からも聞いていただけるようオンライン中継の実施や、幼稚園教諭を配置したお子さん用の控室を用意するなど、お子さん連れの方が説明会に集中できるようにできる限り配慮させて頂いたつもりですが、ご指摘は真摯に受け止めてさせていただきます。 第四幼稚園に一年でも長く通いたいというご意見もいただいております。1年だけ通うことも含め、できる限りの選択肢を確保できるよう努めてまいります。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
10-1	【日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針(修正素案)】 (1)答申がでてから最初の素案までに一年近くかかったのはなぜですか？ (2)日野市の幼児人口の減少とありますが、地域や学区別の幼児人口の増減データなどはないのでしょうか？あるのであれば確認したいです。 (3)私立幼稚園の定員割れが課題となっている、とありますが、幼稚園によってはプレから参加しないと入れないと聞いています。また、日野市から他市の幼稚園に多数の園児がバス通園しているとも聞いています。このことから、公立幼稚園の閉園が課題解決に繋がるとは思えないのですが、公立幼稚園の閉園をどのように課題解決に繋げるのか教えてください。 (4)修正前の素案には、二幼七幼を中心に今後の公立幼稚園の体制を継続する、と書いてありましたが、修正素案では削除されていました。継続はしない方向に変更されたのでしょうか？ (5)在り方検討会について追記されていましたが、在り方検討会では、四幼閉園や幼稚園のなくなる地域について、どのようにデータを集め、どのような検討されたのか教えてください。 (6)修正素案では、公立幼稚園のセンター的な機能、という文面が全体的に削除されていましたが、在り方検討会などにより、方針が変更となったということでしょうか？だとすると、どのように変更になったのでしょうか？ (7)在り方検討会で決まった方針などは、日野市の今後にかかわる重要なものだと思いますが、在り方検討会の決定についての、市民説明会やパブリックコメント募集はないのでしょうか？ (8)公立幼稚園は、私立幼稚園の補完的役割があるのであれば、私立や遠い幼稚園に通えない幼児(言葉の遅れ、外国籍、持病があるなど)が通える施設を、各地域から無理なく通える範囲に1つは残すべきだと思います。それをなくす場合、今後、どのように補完していくのか教えてください。 (9)答申では「統合」となっていましたが、素案では「閉園」となっていました。統合施設がない時点で、答申の内容を尊重していない、と感じました。統合できる施設がないから閉園という変更は、安直だとは思えなかったのですか？ (10)集団性と協同性の芽生えを産む観点とありますが、これによる、幼児教育での主なメリットは何ですか？小学校の児童をみてみると、幼児数の多い幼稚園や保育園からの子ども＝集団活動が出来る、と言うようには見うけられません。メリットを教えてください。	(1)素案の検討について時間を要したことにあります。 (2)日野市ホームページ内に、毎年的人口推移の情報を掲載しております、令和6年ページは以下からご確認いただけます。当該ページから他の年へのリンクが貼ってあり、平成24年以降は男女町名別に情報を見ることができます。 トップページ> 市政情報> 日野市プロフィール > 統計情報> 日野市の人口、世帯数、面積(令和6年5月1日現在)  https://www.city.hino.lg.jp/shisei/profile/toukei/jinko/1025744.html (3)幼児人口が減少する中での施設の適正規模・適正配置の観点から策定した基本方針等(修正素案)となります。私立幼稚園の定員割れを含む、市全体の幼児教育の課題については、在り方検討委員会の報告書も踏まえ、継続して検討していく必要があります。 (4)答申時よりも、さらに幼児人口の減少が進んでおり、他の2園についても、日野市の公立幼稚園の体制をどうしていくのか、という部分については、改めて検討する必要があるため、基本方針の記述を改めさせていただいたところです。今後の公立幼稚園の適正配置については、今後の少子化の状況等鑑みながら、必要に応じて日野市立学校適正規模・適正配置等委員会へ諮問し、その議論・答申を基に、日野市としてどうあるべきか、検討していくことになると考えています。 (5)第四幼稚園を含めた公立幼稚園の在り方など、日野市らしい幼児教育・保育の実現に向けた方策に関することについては、公募により選ばれた市民委員の方が独自に調査を行い取りまとめたいただいた公立幼稚園保護者意見の資料なども用い、2回の議論を実施いたしました。 (6)前回の「日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針等」の素案の時点では、答申でも評価されていた公立幼稚園のあり方や日野市が先進的に取り組んできた幼保小連携の取り組み等の継続・推進、設置主体や施設類型にとられない幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進するためのセンター的な役割等、市全体の幼児教育の向上を目指し、別途会議体を設置し、検討を進めていくことが記載されていました。その後、今回の修正素案までの間に、実際に在り方検討委員会を立ち上げ、これらの幼児教育・保育における課題と、それに対する市がとりくむべき方向性について議論をし、その内容が報告書としてまとめられました。 このため、今回の修正素案ではこの検討結果を踏まえ、幼児教育・保育連携推進プロジェクトチームが中心となり、取組を推進していくことを明記しているところでございます。 (7)在り方検討委員会の役割は、幼保小連携の更なる推進と多様性に応じた学びの充実を目的として、日野市らしい幼児教育・保育の在り方を検討するため、所掌事項について検討を行い、教育委員会に報告することであり、パブリックコメントは実施していません。取りまとめられた報告書の内容を踏まえ、幼児教育・保育連携推進プロジェクトチームが実働部隊となって、検討や実施をしてまいります。 (8)特別な配慮を必要とするお子さんの受入は、公立幼稚園をはじめすべての幼児・教育施設が現に担っているものと考えます。支援策については、第四幼稚園が閉園となった場合に、行き場のない子が生じないように、市内東側への幼稚園枠の設置や、令和7年度に4歳児である幼児が園を確保するための移動支援等を実施することと合わせ、特別な配慮を要するお子さんの受入に関する私立幼稚園への補助の拡充や、入園に関する相談窓口としてコンシェルジュ機能の強化など、包括的に実施する案としております。 (9)統合か閉園にかかわらず、市内東側に保育所型認定こども園設置に向けて幼稚園枠を創設することや、特別な配慮を要するお子さんの受入に関する私立幼稚園への補助の拡充、入園に関する相談窓口としてコンシェルジュ機能の強化など、包括的に支援策を実施してまいります。 (10)令和4年10月の教育委員会臨時会において、「幼児期の発達段階において集団性や協同性等の芽生えを育む観点から、学級人数として最低限必要人数は7人とする。」という考えをまとめています。 また、在り方検討委員会の議論の中で、私立幼稚園からは、「集団性を考えると20名弱くらいは最低欲しい」との意見がありました。また公立幼稚園からは、園児数が1桁という中で、果たして集団として必要な資質・能力が培われていけるか、正直難しいところもあるとの意見がありました。 幼稚園教育要領に示されている、幼稚園教育に関連して重視する事項の1つには、友達と十分に関わって展開する生活とあります。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえ、集団生活の中で共同性を育んでいく事は重要と考えます。	市の考え方は左記のとおりです。日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針の「2 日野市らしい幼児教育、公立幼稚園のあり方」について、表記を修正いたしました。 基本方針(修正素案)の段階で削除していた文言の一部を復活。

ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の適正配置に関する基本方針及び閉園計画(修正素案)のパブリックコメント)(案)

No.	ご意見 (基本的に 全文 原文ママ。一部 改行、フォント等 の装飾省略、図表の省略 等がございます。 また、「回答」欄の内容が対応するご意見の箇所に項番を追加しています。)	教育委員会の考え方	計画等への反映
10-2	【日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針(修正素案)】 (11)日野市は子育て世代が子育てするにはちょうどいい場所だと思うので、その部分にしっかり力を入れれば、十分に見返りを期待できると思います。しかしながら、年々、縮小していく一方なので、とても残念に感じます。日野市として、今後、何を売りにしていこうと考えているのか教えてください。 (12)教育委員会として尽力していきたい、とありますが、例えば今年度～再来年度中くらいに実施することで、どのようなことを考えているのか、例でも良いので教えてください。 (13)市民説明会の時に、複合施設として建て替えられないかと質問をしたところ、教育長から、「複合施設という新しい案も出た」というコメントがありましたが、複合施設の話は、前回の素案の市民説明会でも出ましたし、パブリックコメントでもありましたし、保護者との話し合いでも散々出ていた話です。なぜ教育長は、「新しい案」と言われたのでしょうか？ (14)改めて、複合施設の話です。公立幼稚園の建て替えただけと出来ない、と言うのであれば、地域に不足している、学童施設・エールのOT対応施設・地域のお年寄りが臨時避難できるような施設などと併せた複合施設として幼児の通える園を、四幼周辺の地域に新設または改築して作る事はできないのでしょうか？出来ないとしたら、その理由は何でしょうか？ (15)幼稚園とエールが同じ施設内にあり、隣に小学校があると、いろいろなモデルケースが作れると思います。そのような施策は今後もないのでしょうか？ (16)こども家庭庁設立準備室の調査で「多子家庭や外国にルーツを持つなど社会的・経済的に不利な家庭」「早産による障害や発達に遅れのあるお子さんを持つ家庭」「保護者のメンタルヘルス面に課題のある家庭」は無園児になりやすいという結果が出ていて、具体的に、母親が就労していない公立幼稚園が近くにないパターン、無償化といっても保育料以外の費用が負担になっているパターン、親がメンタルヘルスの問題を抱え入園手続きや通園ができないパターンなどがあり、無園児であることによる虐待の増加も問題になっているとき、まさに、これまで公立幼稚園に救われてきた家庭、四幼の保護者の声そのものだな、と思いました。 公立幼稚園を減らすことで、そのような家庭が増えるリスクはどのように考えていますか？ (17)公立幼稚園が2園となり、公立幼稚園の維持費が減った場合、その見返りはどこに来るのでしょうか？他の教育施設の充実などに使われる予定なのでしょうか？それとも借金が減るだけ、の様なイメージでしょうか？それとも、まだ未定なのでしょうか？ (18)五幼跡地の活用方法は決まったのでしょうか？また、四幼を閉園する場合、跡地の活用方法は決まっているのでしょうか？五幼と同様に更地になるのでしょうか？ (19)五幼を更地にするのはどのくらいの費用がかかったのでしょうか？また、もし四幼が閉園となり、更地とする場合はどのくらいの費用がかかるのでしょうか？ (20)五幼跡地の維持費はどのくらいなのでしょうか？また、四幼が閉園して跡地になる場合、どのくらいの維持費がかかるのでしょうか？	(11)日野市が「子育てしやすいまち」だと市民の方や市外の方に思ってもらえるように「新！ひのっすくすくプラン」で様々な取り組みや方を定めており、令和7年度より計画期間が開始される「(仮称)日野市こども計画」でも同様、様々な事業に取り組むことを定めてまいります。 また、未就学児童人口の減少や教育・保育ニーズの推移、多様なニーズへの対応、幼稚園機能の確保などの諸課題を踏まえ、認定こども園の設置を閉園計画(修正素案)に位置付けました。 (12)令和6年度からは、就園相談機能(コンシェルジュ機能)の強化として、幼稚園園長経験者の幼児教育・保育アドバイザーを新たに学務課に一名配置し、私立も含めた幼稚園入園に関する相談や、園との橋渡し役となって参ります。令和7年度からは、「多様な他者との関わりの機会の創出事業」を活用して、ニーズに応じて市内東側に教育枠を確保することや、移動支援等を実施して参ります。 (13)現時点で新たな複合施設の計画はありませんが、市全体の公共施設の在り方を考えると、施設の縮充を進めることによって、そのような施設の総量は減らしつつも、公共サービスの質や量は充実させたものにするという公共施設の「縮充」の考え方を取り入れながら、公共サービスのあり方を検討しており、そのような施設が新たに生れる可能性はゼロではないと考えています。複合施設の設置の有無や設置場所等については、今後の日野市全体の方針の中で検討することとなります。 (16)いわゆる無園児を含め、個別の状況について相談に乗らせていただきながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。 (17)持続可能な公共サービスの維持・継続に資するものと考えます。 (18)いずれも決まっておりません。第四幼稚園が閉園となった場合、住宅が密集しており道路が狭いなどの条件から、跡地を活用して新たな公共施設を設置するには課題があると現状では考えています。関連部署と連携し、子ども達のためになるような跡地活用等について今後、検討を進めていきたいと考えています。 (19)第五幼稚園の解体費用は約3,800万円要しています。第四幼稚園を解体する場合の想定費用として、現時点では約5,000万円を見込んでいます。 (20)令和5年度は、五幼跡地の除草・撤出・処分に152,000円の費用がかかっています。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
10-3	【市立幼稚園閉園計画(修正素案)(第四幼稚園)】 (1)閉園計画の素案は、詳細データの開示もなく、ページ数も少なく、具体的な内容もあり説明されていないものとなっていますが、今後も、教育施設の閉鎖などは、このような薄い内容の書類で実施されるのでしょうか？ (2)公立幼稚園は私立幼稚園の補完的役割として設置とありますが、私立や遠い幼稚園に通えない幼児(言葉の遅れ、外国籍、持病があるなど)が通える施設として、今も重要な補完的役割を果たしています。ですので、各地域から無理なく通える範囲に1つは必要だと思います。これ以上減らした場合、幼稚園に通えない家庭が増えていくと思いますが、今後、どのように補完していくのか教えてください。 (3)今まで公立幼稚園を「統合」してきた経過が書かれていましたが、今回は「統合」ではなく「閉園」となり、状況が違います。それについて、重く受け止めなかったのは何故ですか？ (4)入園希望者数の減少が課題であるならば、むしろ、3年保育などへの拡充が有効だと思いますし、これまでの統合の結果から見ても、閉園が課題解決につながらないことは明確だと思いますが、閉園という対策だけをやり続けるのは何故ですか？ (5)第五幼稚園閉園の際、保護者に、今後は第四幼稚園に通うように説明があったと聞いています。それなのに、次に閉園するのが第四幼稚園というのは、中長期的な計画性がなさすぎずと思います。どうしてこのような計画になってしまったのですか？ (6)今回、第四幼稚園が閉園となった理由が、一番老朽化しているからであると言うことですが、今までは建物の古さに関係なく、地域の幼児数なども考慮して検討していたのに、今回、建物の古さだけで決めたのはなぜですか？ (7)閉園に伴い実施する支援策の内容が、概要ばかりで詳細が書いていないので、これを見ただけでは、問題があるかないか判断できないと思います。もう少し詳しく記載しようとは考えなかったのですか？ (8)子ども園の場所は、四幼から自転車でも無理なく通える場所と言われていましたが、実際には、細い道や急な坂がある20分くらいかかる道のりだと言うことで、市民説明会ではギリギリ通えるはずと言われました。幼稚園(私立も公立も)がない地域から、もう少し近い場所に用意することは出来ないのでしょうか？ (9)子ども園の規模は、5名×2年保育(保育時間は公立幼稚園と同じ)で、当面は保育園にその規模の入園枠を設けるだけだと聞いています。保育園の子どもと同じ部屋で、その人数規模での園生活だと、幼稚園として機能するのでしょうか？また、保育園児と共同生活となるため、保護者の参加できるイベントなどはあるのか？幼稚園に比べて少ないのでは？と思います。どうなのでしょう？ (10)子ども園の幼稚園枠の規模は5名×2年保育(保育時間は公立幼稚園と同じ)ということですが、その規模で入園者を公募した場合、どの程度の希望者が出ると想定している計画でしょうか？希望者がいない場合は計画倒れとなるのでしょうか？	(1)修正素案の策定に至っては、適正規模・適正配置等検討委員会の答申を踏まえ、教育委員会での議論等を経て、作成したのとなっており、その内容について、保護者説明会や市民説明会、パブリックコメントを実施し、広く意見を募っているところです。 (2)特別な配慮を必要とするお子さんの受入は、公立幼稚園をはじめすべての幼児・教育施設が現に担っているものと考えます。支援策については、第四幼稚園が閉園となった場合に、行き場のない子が生じないように、市内東側への幼稚園枠の設置や、令和7年度に4歳児である幼児が園を確保するための移動支援等を実施することと合わせ、特別な配慮を要するお子さんの受入に関する私立幼稚園への補助の拡充や、入園に関する相談窓口としてコンシェルジュ機能の強化など、包括的に実施する案としております。 (3)幼児人口の減少等の理由から、公立幼稚園を1園減じることが妥当とする答申を重く受け止めております。統合か閉園かにかかわらず、市内東側に保育所型認定こども園設置に向けて幼稚園枠を創設することを含め、行き場のない子どもが生じないための方策を講じて、対応してまいります。 (4)幼児人口が減少する中での施設の適正規模・適正配置の観点から策定した閉園計画(修正素案)です。3年保育を実施している私立幼稚園においても欠員が続いており、必ずしも有効な手段とは言えないと考えています。在り方検討委員会の報告書を踏まえ、3年保育だけに捉われず、東京都が実施する「多様な他者との関わりの機会の創出事業」の活用などを含め、公立幼稚園における3歳児の定期的な預かりなど多様な預かりニーズに対応できるよう、取組を充実してまいります。 (5)急速に進む幼児人口の減少や教育・保育ニーズの推移を踏まえ、適正な在り方を検討した結果、現在の修正素案となっています。ご指摘については、真摯に受け止めてさせていただきます。 (6)今般、市内全体的に幼児人口が減少していること、各園共通して大きく在園児率が減少している中であって、老朽化している幼稚園の建て替えについては、幼稚園設置基準により、園児数に関わらず、現状の第四幼稚園と同規模の園舎、園庭が必要なため、幼児人口の減少や保育ニーズの高まっている状況では、建物の規模が、どうしてもオーバースペックになってしまうので、建て替え以外の別の方策を考える必要があります。これを考慮した計画(修正素案)となっています。 (7)4月に実施した第四幼稚園保護者説明会、市民説明会において、より具体的な内容についてご説明させていただきました。しかしながら、認定こども園の園名など関係者への説明など調整を行っている最中であり、一部お示しできなかった内容もあるため、整理ができた段階で速やかに公表したいと考えています。あり方検討委員会できりとめられた具体策をベースに、直接関係者する保護者から個別の状況について相談に乗りながら、具体策を実施してまいります。 (8)全ての方にとつて、自宅から近い幼稚園を設置することには、限界があり、保育ニーズや施設全体のバランスの観点から、市内東側の幼稚園枠を更に増やすことは困難であると考えます。 (9)幼児教育要領及び保育所保育指針では、「幼稚園教育や保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする」とことや、「小学校教育が円滑に行われるよう、学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、『幼児期の終わりまで』に育ってほしい姿』を共有すること」などが示されており、幼稚園、保育園共に共通したカリキュラムが実施されております。市内東側に幼稚園児の枠をつくる中で、幼稚園教諭を配置する等、保育内容の充実を図ってまいります。 (10)市内東側の幼稚園枠については、通園希望者の声を伺いながら、ニーズに応じて令和7年度から設置できるよう対応してまいります。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)①に設置場所を「日野市立みさわ保育園」を候補とする等を追加。
10-4	【市立幼稚園閉園計画(修正素案)(第四幼稚園)】 (11)市内東側に特別な配慮を必要とする幼児の相談施設とありますが、これは、今までの子育て相談窓口とは何が違うのでしょうか？また、閉園の施策と言える施策は、通園できる場所の確保に係るものだと思いますが、この施策はどのように関係するのでしょうか？ (12)私立幼稚園の受け入れ拡充の施策とは、どのようなものなのか、具体的に教えてください。例えば、私立幼稚園によっては、お金だけもらって入園させるけど放置、のようになっている意味がないと思います。その辺をどのような頻度でどの程度の確認や共有をしていく予定なのでしょう？幼稚園側に聞いて終わりではなく、保護者のヒアリングも必要になってくると思いますが、どのように考えているのかも、あわせて教えてください。 (13)上記とあわせての話ですが、公立幼稚園に通う子どもが減ったせいかはどうかは分からないのですが、それらを必要とする子どもがエールやステップに問わず、学校での活動に支障が出たり、辛い思いをしたりする場面が増えているように見受けられます。少なくとも公立幼稚園では、動画や詳しい資料などを用いて保護者への説明を行いました。それぞれの幼稚園や保育園でどのような説明を行っているのか確認し、エールやステップに行くことがレッテルとなるから行かせない方が良く、などの考えをもつ保護者を減らしていく事も、子ども達にとって必要かもしれないと感じています。あわせて対策をご検討いただきたいと思います。 (14)就職相談機能にはとても期待しています。保護者が何園もハシゴした挙げ句辛い思いをする、ということがないよう、是非、しっかりとした機能の確立をお願いいたします。 (15)移動支援についてですが、どのような支援なのか詳しく教えてください。また、令和7年度の4歳児のみとの事ですが、その後の幼児については、どのような移動支援を行っているのか、詳しく教えてください。 (16)行き場のない子どもが生じないための方策を併せた上で閉園、との事ですが、例えば、①出来るだけ近くで育てたい、②家の近くでないと通園させられない(多胎児、多子家庭、子どもや親に持病があるなど)、③私立に入れない(言葉や生活面に遅れがあり断られた、子どもに持病があり断られた、外国ルーツなどで断られた、宗教がある幼稚園は入れない、など)、④通った私立があわなかったので転園したい、⑤転動が多く私立は難しい、⑥公立のような方針の幼稚園に通わせたい、⑦子どもと関わる時間を多くしたいので公立を選んでいた、というような保護者の声に対し、現状ではどのように対応する考えなのか教えてください。それはもう諦めてもらうしかない、こういう方向で検討中、など、具体的な検討具合が知りたいです。 (17)今回の公立幼稚園閉園問題の中で、私立幼稚園にも保育園にも入れない、3歳児の通園先がない、という問題が分かりましたが、それに対して、もし考えている対策があれば教えてください。 (18)この素案の対策だけでは、行き場のない子どもが生じないための方策、とは言い切れないな、と感じていますが、市としてはどう考えていますか？これだけで良いと本当に思っていますか？教えてください。	(11)新たに整備する児童館には相談室を設置して、児童館職員ではなく、エールの心理士が専門的な相談に応じ必要な支援につなげてまいります。これは、閉園に伴う直接的支援策ではありませんが、市内東側において、支援が必要な子どもへの公的役割の充実につながるものと考えています。 (12)特別な配慮を要するお子さんを受け入れた場合、東京都から補助を受けることが出来ますが、年度途中の入園児は補助対象外となっております。令和6年度からは、年度途中に入園するお子さんについては、月額単位で、市が単独で追加補助をいたします。私立幼稚園における受け入れ体制については、私立幼稚園と継続して意見交換を実施して参ります。保護者からの意見聴取については、貴重なご意見として承ります。 (13)必要な支援策を必要子どもに届けられるよう、幼児教育・保育連携推進プロジェクトチームとエールの連携のもと、取り組んでまいります。 (14)相談機能の強化としては、例えば、配慮が必要なお子さんが入園先に悩んでいる場合に、園に対して児童の情報提供など、保護者が円滑につなぐ仲介役のような役割を含め、特別な配慮を必要とするお子さんの入園先などに悩んでいる方への窓口を充実し、個別の相談に応じる体制を開始しているところです。 令和6年度から、幼稚園園長経験者の「幼児教育・保育アドバイザー」を新たに学務課に一名配置し、私立も含めた幼稚園入園に関する相談や、園との橋渡し役となっております。 (15)既に公立幼稚園のぶちっこ(未就園児の日)に通っている等、公立幼稚園に通えることを希望する世帯に対し選択肢を確保する観点から実施するものです。その後の幼児については、個別の状況について相談に乗りながら、就園に繋げてまいります。 (16)個別の状況について相談に乗りながら、対応してまいります。 (17)東京都が実施する「多様な他者との関わりの機会の創出事業」の活用などを含め、公立幼稚園における3歳児の定期的な預かりなど多様な預かりニーズに対応できるよう、取組を充実してまいります。 (18)特別な配慮を必要とするお子さんの受入は、公立幼稚園をはじめすべての幼児・教育施設が現に担っているものと考えます。支援策については、第四幼稚園が閉園となった場合に、行き場のない子が生じないように、市内東側への幼稚園枠の設置や、令和7年度に4歳児である幼児が園を確保するための移動支援等を実施することと合わせ、特別な配慮を要するお子さんの受入に関する私立幼稚園への補助の拡充や、入園に関する相談窓口としてコンシェルジュ機能の強化など、包括的に実施する案としております。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)⑤に移動支援の対象及び内容を追加。

ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の適正配置に関する基本方針及び閉園計画(修正素案)のパブリックコメント)

(案)

No.	（基本的に 全文 原文ママ。一部 改行、フォント等 の装飾省略、図表の省略 等がございます。 また、「回答」欄の内容が対応するご意見の箇所に項番を追加しています。）	教育委員会の考え方	計画等への反映																																																																													
11	上の子2人が第四幼稚園でお世話になりました。とてもひのびと育てていただきました。 1番上の子の時は、下の子2人を一緒に連れて徒歩で通っていました。 日野市の東側に幼稚園が少ないことは何度も言われていると思いますが、第四幼稚園が閉園したあとの近隣の子供達は全員どこかしの園に入れるのでしょうか？私立幼稚園や保育園に入ったとして、場所によっては、災害の時に保護者が迎えに行くのに時間がかかると思います。バス通園が難しい子もいると思います。 閉園後1年間だけ交通費の補助ということですが、その後の子供達は補助なく通える場所に入れるのでしょうか？ 子供達の受け入れ場所が確定していないうちに閉園したのでは、行き場のない子たちはどうしたら良いのでしょうか？ 保育園内の幼稚園枠という話も、現在の幼稚園と同じような内容で保育されるのでしょうか？ 全て行き当たりばったりのような対策で、子育てしにくい場所になっていっていると思います。 まだまだ問題はありますが、それらを解決しないまま閉園の時期だけ決定してしまうのは時期早々ではないでしょうか？ 子供が少ない園を無駄だと言うのではなく、未来への投資だと考えられる日野市であってほしいです。	貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 第四幼稚園が閉園した場合の支援策の1つとして、多様な他者との関わりの機会の創出事業を検討しております。幼稚園教諭を配置するなど、利用者の声も伺いながら保育内容の充実を図ってまいりたいと考えております。 移動支援については、入園を希望する保護者のニーズに応じて、令和7年度に4歳児である幼児、すなわち、現時点での3歳児が通う園を確保できるよう、閉園時に転園することの影響を考慮し、令和7年度に1年前倒して講じてまいります。 相談機能を通じて個別の状況について相談に乗りながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)⑤に移動支援の対象及び内容を追記。																																																																													
12	第四幼稚園の廃止に反対します。 市立幼稚園の存続を切に希望します。 是非、あの地域の近くに安全な場所に建て替えるなど検討願います。 民営の幼稚園は収益が無くなれば、否応なしに廃園します。 市立幼稚園は日野市の宝です。無くさないでください。 少子化だから市立幼稚園を減らすという考えは市民目線から外れています。 私の子供たちは市立保育園にお世話になりました。 公立の保育園や幼稚園がだんだん無くなり、若い世代の方が困っています。 少子化対策も積極的に取り組み、子育てしやすい日野になるよう検討願います。	貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 市内東側への保育所型認定こども園設置に向けて幼稚園枠を確保するとともに、個別の状況について相談に乗りながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。 今後も引き続き、公立幼稚園が培ってきた良さについては、市全体として生かして行きたいと考えています。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。																																																																													
13	基本方針および計画素案に表されている日野市の幼児教育政策全般に対して意見を述べます。 これまで、多くの保護者や地域住民からの切実な訴えがあったにもかかわらず、最終的にゼロ回答に等しい形での方針が出されたことに失望します。 基本方針の1 (1)「子育てニーズの多様化や幼児人口の減少」→少子化は日本全体の傾向であり、少なくとも日野市を含む東京都では大幅な減少にはなっていません。今後の減少を食い止めるためにも、OECDで最下位レベルの教育への公的支出を充実させ、子育てしやすい日野市をアピールすることが必要です。多様化するニーズがあるとしながら、私立園一本に統合し公的責任を逃れようとするのは矛盾しています。 13-① (2)「私立幼稚園との比較検討において…公費負担に格差・偏重」 私立は民間なのだから公費負担が少ないのは当然です。私立大学と国公立大学で公費負担に差があることを「格差・偏重」と言うのでしょうか？ 13-② (4)「集団性と協同性の芽生えを育む観点から、一定数の望ましい学級人数」 地方の幼稚園ではもっと少ない学級人数のところが無数にありますが、それらは「集団性や協同性を育む」のに不適切なのでしょうか。閉園ありきの口実になっているのと思えます。 13-③ 閉園計画の支援策 ⑤「令和7年度に4歳児である幼児が通う園を確保するための移動支援等」 幼児および保護者にとって最も日常的な居場所であるべき幼稚園に、わざわざ車やタクシーで通うという発想が非現実的です。車や駐車場のない家庭はどうするのでしょうか。タクシーは毎朝配車してもらうのですか？ そこまでして家から遠い園に通わせる意味はなんですか？ 子育て家庭のリアリティをまったくわかっていないと思います。 家の近くの安心できる預け先で、近所のお友達と一緒にのびのび育てたいというのはごく当たり前のニーズです。 市役所の近くの、自転車ですえ登れない坂道の上に立派な子育て支援施設を建てても、市の東側に暮らす子育て家族にはほとんどメリットはありません。実際に生活している子どもや保護者の訴えを無視して市立園を次々に閉園しながら、子育て支援に力を入れているような「やっている感」だけの政策に憤りを感じます。 13-④	13-① 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 今回の修正素案は、公立幼稚園を無くして、私立幼稚園一本にするという内容のものではございません。 幼児人口については、減少傾向が続いている状況です。令和6年4月時点で0歳児から5歳児までの人口の合計は、7,955人となっており、過去10年間で最も人口が多かった平成28年度の9,543人と比較すると、1,588人、約17%の減となっています。 答申のあった令和3年との比較では、885人の減となっております。 なお、子育てしやすい日野市を目指すための取り組みについては、「新！ひのっすくすくプラン」に位置付けており、令和7年度より計画期間が開始される「(仮称)日野市こども計画」にも同様に位置付けてまいります。 <table><tr><th>何年前▼</th><th>時点▼</th><th>時点▼</th><th>0歳児▼</th><th>1歳児▼</th><th>2歳児▼</th><th>3歳児▼</th><th>4歳児▼</th><th>5歳児▼</th><th>合計▼</th><th>前年比▼</th></tr><tr><td>5年前</td><td>H31. 4</td><td>2019. 4</td><td>1,400</td><td>1,407</td><td>1,547</td><td>1,625</td><td>1,559</td><td>1,569</td><td>9,107</td><td>▲173</td></tr><tr><td>4年前</td><td>R02. 4</td><td>2020. 4</td><td>1,385</td><td>1,476</td><td>1,446</td><td>1,575</td><td>1,631</td><td>1,577</td><td>9,090</td><td>▲17</td></tr><tr><td>3年前</td><td>R03. 4</td><td>2021. 4</td><td>1,286</td><td>1,400</td><td>1,477</td><td>1,463</td><td>1,580</td><td>1,634</td><td>8,840</td><td>▲250</td></tr><tr><td>2年前</td><td>R04. 4</td><td>2022. 4</td><td>1,254</td><td>1,322</td><td>1,384</td><td>1,458</td><td>1,456</td><td>1,590</td><td>8,464</td><td>▲376</td></tr><tr><td>1年前</td><td>R05. 4</td><td>2023. 4</td><td>1,181</td><td>1,273</td><td>1,314</td><td>1,387</td><td>1,493</td><td>1,464</td><td>8,112</td><td>▲352</td></tr><tr><td></td><td>R06. 4</td><td>2024. 4</td><td>1,184</td><td>1,233</td><td>1,282</td><td>1,336</td><td>1,405</td><td>1,515</td><td>7,955</td><td>▲157</td></tr></table> 13-② 適正配置等検討委員会が答申で触れている格差・偏重とは、公立・私立ともに 幼稚園の運営には公費が投入されていますが、公立幼稚園は園児数が少ないため、園児一人あたりの公費負担を比較すると、公立の方が私立よりも大きくなっている、という意味であり、持続可能な公共施設の運営の観点からは、向き合うことが必要なデータであると考えています。 13-③ 令和4年10月の教育委員会臨時会において、「幼児期の発達段階において集団性や協同性等の芽生えを育む観点から、学級人数として最低限必要な人数は7 人とする。」という考えをまとめています。 また、在り方検討委員会の議論の中で、私立幼稚園からは、「集団性を考えると20名弱くらいは最低欲しい」との意見がありました。また公立幼稚園からは、園児数が1桁という中で、果たして集団として必要な資質・能力が培われていけるか、正直難しいところもあるとの意見がありました。 幼稚園教育要領に示されている、幼稚園教育に関連して重視する事項の1つには、友達と十分に関わって展開する生活とあります。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえ、集団生活の中で共同性を育んでいく事は重要と考えます。 13-④ 移動支援については、既に第四幼稚園のぶちっこ(未就園児の日)に通っている等、公立幼稚園に通えることを期待する世帯に対し、転園の負担の軽減を含め、選択肢を確保する観点から実施するものです。個別の状況について相談に乗りながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。	何年前▼	時点▼	時点▼	0歳児▼	1歳児▼	2歳児▼	3歳児▼	4歳児▼	5歳児▼	合計▼	前年比▼	5年前	H31. 4	2019. 4	1,400	1,407	1,547	1,625	1,559	1,569	9,107	▲173	4年前	R02. 4	2020. 4	1,385	1,476	1,446	1,575	1,631	1,577	9,090	▲17	3年前	R03. 4	2021. 4	1,286	1,400	1,477	1,463	1,580	1,634	8,840	▲250	2年前	R04. 4	2022. 4	1,254	1,322	1,384	1,458	1,456	1,590	8,464	▲376	1年前	R05. 4	2023. 4	1,181	1,273	1,314	1,387	1,493	1,464	8,112	▲352		R06. 4	2024. 4	1,184	1,233	1,282	1,336	1,405	1,515	7,955	▲157	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)⑤に移動支援の対象及び内容を追記。
何年前▼	時点▼	時点▼	0歳児▼	1歳児▼	2歳児▼	3歳児▼	4歳児▼	5歳児▼	合計▼	前年比▼																																																																						
5年前	H31. 4	2019. 4	1,400	1,407	1,547	1,625	1,559	1,569	9,107	▲173																																																																						
4年前	R02. 4	2020. 4	1,385	1,476	1,446	1,575	1,631	1,577	9,090	▲17																																																																						
3年前	R03. 4	2021. 4	1,286	1,400	1,477	1,463	1,580	1,634	8,840	▲250																																																																						
2年前	R04. 4	2022. 4	1,254	1,322	1,384	1,458	1,456	1,590	8,464	▲376																																																																						
1年前	R05. 4	2023. 4	1,181	1,273	1,314	1,387	1,493	1,464	8,112	▲352																																																																						
	R06. 4	2024. 4	1,184	1,233	1,282	1,336	1,405	1,515	7,955	▲157																																																																						
14	【日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針(修正素案)】 「子育てニーズの多様化や幼児人口の減少においては、その傾向が今後も継続するものと考えられ、公立幼稚園の入園希望者の人数の今後を想定すると3園を維持継続していくことは適正数とは考えにくい。」とありますが、市民説明会でも市が『公立幼稚園は必要』とはっきり名言しています。どこの地域も幼児は減少しています。増やす努力もしない、維持する努力なしで適正数を考える事は間違いです。子育てニーズが多様化しているからこそ、私立幼稚園の補完的役割ではない、誰もが入れる、取り残されない、インクルーシブ教育が確立している公立幼稚園の存在は重要であり、26市の中で唯一日野市だけが持つ、大切にすべき、誇るべき所ではないのでしょうか？3園では足りないほどですが、東側に1つしかない公立幼稚園を維持していく事が適正だと思います。 14-① 「私立幼稚園との比較検討において園児一人あたりにかかる公費負担につき、格差・偏重が生じている」子ども条例で誰一人取り残さないと掲げていて、費用を言うのは論外です。 14-② 「一部に老朽化が著しく進む園舎があり、今後、幼児教育にふさわしい適切な環境整備が必要である。」 日野市の多くの施設が老朽化していて建て直しが必要となっているからこそ、なくすのではなく、複合施設にするなど工夫をしてより良い子育てや教育環境を整えるべきである。その費用を削ればますます子どもが減り、市民減少に繋がります。 東側には公立幼稚園がありません。700人規模の四小の学区区域には私立幼稚園もありません。また750人の生徒がいる一中学区に広げても特色のある私立が1園あるのみです。唯一残る第四幼稚園を閉園しないでください。 14-③ 【市立幼稚園閉園計画(修正素案)(第四幼稚園)】 昨年から学務課と話し合いをしてきました。私たちの貴重な時間を捧げてきたにも関わらず、毎回話は持ち帰り持ち帰りでほとんど進まず、話し合った回数稼ぎ、既成事実を作られたと感じる辛く厳しい事でした。 ただ、今年の修正案が出される頃に急に回数が増え、色々話が出て急かされた感もありましたが、やっと動きが出たかなと思えました。 まだ案がでたばかりなんです。 叩き出しの案で固まってない、不安要素、穴だらけの状態で第四幼稚園を閉園することはあり得ないです！ 5年10年先の未来を考えましようと言った教育長。 この支援策のどこに5年先が見えますか？ 今声をあげる家庭が何とかなれば良いと思ってやってきたわけではありません。地域に幼稚園は必要です。地域を豊かにするのは子どもたちです。 悩まず、探さず通える場所を残してください。 どうしても閉園ならば、支援策が市民が納得できる形になるまでは閉園時期を延ばしてください。 14-④	14-① 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。市内東側に保育所型認定こども園設置に向けて幼稚園枠を創設することを含め、行き場のない子どもが生じないための方策を講じてまいります。 14-③ 私立幼稚園を含めた四小地域の幼稚園枠の選択肢の少なさについては、課題として認識しております。交通手段の確保を含めた私立幼稚園への入園、公立保育園での受け入れの可能性を含め、個別の状況について相談に乗りながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。 14-② 適正配置等検討委員会が答申で触れている格差・偏重とは、公立・私立ともに 幼稚園の運営には公費が投入されていますが、公立幼稚園は園児数が少ないため、園児一人あたりの公費負担を比較すると、公立の方が私立よりも大きくなっている、という意味であり、持続可能な公共施設の運営の観点からは、向き合うことが必要なデータであると考えています。 14-④ 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 公共施設全体の縮減が必要となる中、保育園枠と併せて幼稚園枠を確保することで、集団性の確保と行き場のない子どもを生まないための選択肢の確保を両立することを含め、具体的な取組を進めてまいります。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。																																																																													

ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の適正配置に関する基本方針及び閉園計画(修正素案)のパブリックコメント)

(案)

No.	ご意見 (基本的に 全文 原文ママ。一部 改行、フォント等 の装飾省略、図表の省略 等がございます。 また、「回答」欄の内容が対応するご意見の箇所に項番を追加しています。)	教育委員会の考え方	計画等への反映
15	【日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針(修正素案)】 読ませていただき、気になった点を書きます。 近年の幼児人口の減少は、全国的に出生数が減少していることを考えれば当然のことです。この問題は、今に始まったことではないと思います。幼児人口が減少しているから、市立幼稚園を減らすという立場に立つのではなく、もっと以前から中長期的視野に立って、子どもを産みたい・育てやすい施策の在り方を、市政・市民全体で考える必要があったと思います。 国政・都政の大きな問題ではありますが、全国的には子供を産みやすい子どもを育てやすいまちづくりをしている自治体はあると思うのです。 「日野市らしい幼児教育・保育の在り方」と何度か言われていますが、何が、「日野市らしい」のかがわかりません。 全国の先進事例から、得るものがあるのではないのでしょうか。 また、公立幼稚園の「適正配置」と書かれていますが、第七幼稚園は、旭が丘。第二幼稚園は、平山です。市の東部にある第四幼稚園が閉園になれば、市の東部地域には、公立はなくなります。 働く親が増加していることから、保育ニーズが高くなっている昨今、幼保連携の子育ての仕組みの推進が必要なのではと思います。 住み慣れた地域で、安心して子育てができます様、ご尽力をお願いします。 15-① 【市立幼稚園閉園計画(修正素案)(第四幼稚園)】 気になった点について書きます。 ・園児数についていえば、第二幼稚園も第四幼稚園と同じ位の人数のようなので、第四幼稚園の閉園は、主には「園舎の老朽化」が理由のようですね。市の東側の公立幼稚園は無くなります。今後のことで言えば、何故、この場所に新たに建物を建て、保育所型認定こども園を設置しないのか疑問です。住み慣れた地域で、顔見知りの地域の方も知っている場所で子育てができれば、保護者も安心です。 ・支援策で市内東側に保育所型認定こども園を設置すると書かれていますが、なぜ、はっきり場所と開設年次が明らかにされていないのでしょうか？この様な曖昧な内容では、保護者は不安になります。また、この内容で市民にパブリックコメントを求めるのはいかなものでしょうか。 ・令和7年度に4歳児である幼児が通う園を確保するための移動支援等とありますが、具体的に何を言っているのか不明ですので、はっきりと書いていただく必要があります。保護者にとって、子どもの送迎は雨天時は、本当に大変です。 15-② 以上です。	15-① 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。在り方検討委員会の報告書を踏まえ、今後は、公立幼稚園がこれまで培ってきたノウハウやその役割を「幼児教育・保育連携推進プロジェクトチーム」やプロジェクトチーム内に配置された幼児教育・保育アドバイザーを含め市全体として、日野市の幼児教育の更なる発展に向けて、公立や私立といった設置主体や、幼稚園や保育園といった運営形態に捕らわれず、市内幼児教育・保育施設が一元となって、日野市らしい質の高い幼児教育・保育を目指してまいります。 将来にわたり、持続可能な公共サービスを提供するためには、社会情勢を踏まえ、人口規模に応じた適正な公共サービスのあり方を考える必要があります。 15-② 現園舎の建替えは、費用や、必要となる施設規模の点からも難しいと考えています。 日野市では、公共施設の総量は減らしつつも、公共サービスの質や量は充実させたものにするという公共施設の「縮充」の考え方を取り入れながら、公共サービスのあり方を検討しています。 未就学児童人口の減少や教育・保育ニーズの推移、多様なニーズへの対応、幼稚園機能の確保などの諸課題を踏まえ、認定こども園の設置を計画に位置付けました。認定こども園の設置場所については、関係者との調整状況等を踏まえて公表してまいります。 移動支援については、既に第四幼稚園のぶらっこ(未就園児の日)に通っている等、公立幼稚園に通えることを期待する世帯に対し、転園の負担の軽減を含め、選択肢を確保する観点から実施するものです。個別の状況について相談に乗りながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)①に設置場所を「日野市立みさわ保育園」を候補とする等を追記。 6(1)⑤に移動支援の対象及び内容を追記。
16	【日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針(修正素案)】 『少子化によって、『日野市の北東部にある第4幼稚園を閉鎖する』という日野市の「市立幼稚園の適正規模・適正配置等の基本方針」の方針は、間違っているとおもいます。 これまで7園あった幼稚園は、少子化という理由でこれまでに4園減らしてきました。「子どもが減った⇒定員に満たない⇒金を掛けるのは止めよう⇒順次幼稚園を減らす」という考え方で、予算を削り、幼稚園を減らしてきました。4幼も潰そうというのが今回の結論です。 その結果、日野市の西部地域には公立幼稚園がなくなりました。加えて4幼地域には一つも私立幼稚園がありません。4幼地域の幼稚園に入りたい子どもの受け皿が一つもないということです。 現状の子育て世代は、非正規雇用で就職することが多くなり、また女性の社会進出がふえてきました。それによって保育園入園を望む世帯が増えていることも事実です。しかし、どの世帯も保育園に入園できるわけではありません。 ○家族に介護を必要とする人がいる。 ○子どもの親が病弱で働けない。 ○乳児がいて、働けない。 ○家庭内の仕事で働き、育児と仕事の両立を同時にせざるをえない。 ○こどもの事情で目が離せない、近くの幼稚園にいきたい。 ○経済的な理由で公立幼稚園に入りたい.. などさまざまな事情で保育園に入らず、幼稚園にしか行けない子どもがいることは、十分ご存じだと思います。また、障がいのあるお子さんが、私立幼稚園から「公立幼稚園に移って下さい」と言われる方がいることもあります。 なによりも日野の公立幼稚園の入園を望んでいる方は、大勢いらっしゃいます。 ○一人一人の子どもの性格を掴みを大切に育てている。 ○園庭や多摩川の河川敷、近くの公園などで遊びのびと子どもが遊んでいる。 ○園から帰ると、園での話が次から次へと出てくる。 ○どの子ども大切に育てられていることがよくわかる。 ○親子の交流が密になるように工夫をしている・・・ など、公立幼稚園のよいところが親や家族に伝わってきます。 基本方針にも記されているように、先生方同士、先生と親たちの連携もあって、すばらしい幼児教育を進めている。先生方も誇りを持って仕事に携わっているのに、なぜ次々と閉園させるのか。 少子化対策は、費用がかかるから減らせという時代から、もっと子どもたちが多くなるようにする時代に変えていくことが緊急に求められている現状です。今、日野市が考えはじめている幼保一体化した施設づくりを早急に実現することです。4幼地域の子どもたちを見捨てずに、4幼地域の親子たちが安心して通える場所(万願寺グラウンドなど)に建設して、4幼から切れ目なく続けて通える施設を建てて下さい。30分かけて危険な通園をさせる幼稚園はもっての外です。日野市自身が市の宝の幼児教育を大切にし、子どもたちを慈しむ行政であることを願っています。 16-① 【市立幼稚園閉園計画(修正素案)(第四幼稚園)】 第4幼稚園を閉園しないでください。 ・第4幼稚園の園舎が古いのは、何年も前からわかっていました。 ・第4幼稚園が浸水地域に位置することもわかっていたはず。 ・少子化になることもわかっていたはず。 ・子育て世代の人々が非正規雇用で仕事をし、片親だけの収入では子育てするのが困難であることも長年わかっていました。 もっと早くから、幼保一体化の施設の建設に切り替えなかったのだらうと思っています。 保育も幼児教育も共に子育てには大切です。第5幼稚園を閉園し、子どもたちを第4幼稚園に転園させ、まもなく閉園させる。これでは親も子どもも日野市の方針に振り回されていると思わざるを得ません。子どもたちの成長を大事にしてください。 日野市の素晴らしい幼児教育をなくさず、その魅力をアピールし、在園児を増やして下さい。私立幼稚園は、経営がうまくいかなければ潰すことができます。公立幼稚園はそれこそ踏ん張って子どもたちのためにがんばってほしいです。 4幼地域の子どもたちをみすてないでください。幼保一体化施設と繋がるまで、第4幼稚園を閉園しないで下さい。 若い世代が日野市に移住したいと思える市にしてください。 期待しています！ 16-②	16-① 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 将来にわたり、持続可能な公共サービスを提供するためには、社会情勢を踏まえ、人口規模に応じた適正な公共サービスのあり方を考える必要があります。 16-② 公立幼稚園のPRIについては、保護者の方からもご意見をいただきながら、公立幼稚園の良さを知ってもらうための情報発信としてHPの内容のリニューアルやリーフレットの活用方法など、実現可能なことについて順次対応してまいりました。公立幼稚園の役割についても、引き続き発信に努めてまいります。 在り方検討委員会の報告書を踏まえ、3年保育だけに捉われず、東京都が実施する「多様な他者との関わりの機会の創出事業」の活用などを含め、公立幼稚園における3歳児の定期的な預かりなど多様な預かりニーズに対応できるよう、取組を充実してまいります。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
17	市の東側だけでなく、西側にも公立幼稚園を残してほしいです。やはり発達の問題で、私立幼稚園を断られたり進級のタイミングで市立幼稚園へ転園せざるを得ない子もいるので、どの子も平等に通いやすい場所に、最後の砦として公立幼稚園は維持して欲しいです。	貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 特別な配慮を必要とするお子さんの受入は、公立幼稚園だけでなく、私立幼稚園においても、多くのお子さんを受け入れており、その人数は増加しております。閉園計画(修正素案)の支援策の中でお示ししている、特別な配慮を要するお子さんの受入に関する私立幼稚園への補助の拡充や、入園に関する相談窓口としてコンシェルジュ機能の強化などについては、第四幼稚園が閉園となった場合に転園となるお子さんへの配慮に限らず、市全体としてお子さんが適切に園に通えるように体制を充実させていくものです。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。

ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の適正配置に関する基本方針及び閉園計画(修正素案)のパブリックコメント)

(案)

No.	ご意見 (基本的に 全文 原文ママ。一部 改行、フォント等 の装飾省略、図表の省略 等がございます。 また、「回答」欄の内容が対応するご意見の箇所に項番を追加しています。)	教育委員会の考え方	計画等への反映
18	話し合いを何度も重ね、こども園の案については当初ありがたいと思いましたが、周りに幼稚園が2つある地域、しかも一度必要無いと無くした第五幼稚園の近く。結局のところ日野に幼稚園の無い空白地域が出来てしまう…そのことは全く変わらない。それを大変残念に思っています。 ご存じかはわかりませんが、そんな空白地域にも新興住宅はたくさん出ています。私もそうですが、特に下調べせず引っ越してくる方もたくさんいると思います。幼稚園が無いなんて考えないのです。 出産により体調を崩したり、子の可愛さに職場復帰しなかったりなどで保育園を利用出来なかった時のことなど、考えないのです。そして新居をかまえ、やがて子どもを授かり、その子が育つにつれて、自分たちの置かれた環境に気づきます。自分達の住んでいる場所に幼稚園が無いのです。 いま入園を希望する子どもだけではないのです。その子ども達だけ対処すれば良いわけではないのです。これから成長していく子ども達、これから産まれてくる子ども達のために、この空白地域に幼稚園が必要なのです。 対外的な「育ち」「教育」「子どもに優しい街」。広報などに綺麗な言葉を使うのであれば、リアルな人間である市民に対して、子ども達に対して、それを実行していただきたい。それを切に望みます。 四小及び一地域に幼稚園機能を持った施設の設置を願います。 18-① こちらで書くことはありませんが、引き続きの話し合いをご承諾いただいてありがとうございます。 日野市の、子ども達の未来のために、また話し合いを続けていければと思います。 教育長が最初の話し合いでおっしゃった、10年後、20年後を見据えた話し合いがしたいです。今後ともよろしく願いたします。 18-②	18-① 貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。市内東側に保育所型認定こども園設置に向けて幼稚園枠を創設することを含め、行き場のない子どもが生じないための方策を講じてまいります。 私立幼稚園を含めた四小地域の幼稚園枠の選択肢の少なさについては、課題として認識しております。交通手段の確保を含めた私立幼稚園への入園、公立保育園での受け入れの可能性を含め、個別の状況について相談に乗りながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。 18-② 公共施設等総合管理計画において、日野市では公共施設の総量は減らしつつも、公共サービスの質や量は充実させたものにするという公共施設の「縮充」の考え方を取り入れながら、施設の集約・再配置等の再編や、公共施設に関する事業の効率化を推進し、今後予測される財源不足に対応していきます。 支援策の実施にあたっては、当事者となる保護者の方からのご意見を踏まえた、取組を進めていきたいと考えています。また、公共施設の再編事業を実施する場合には、本計画の理念である「市民ニーズやまちづくりに柔軟に対応し続ける公共施設マネジメント」に照らして市民への説明会をはじめ、市民のニーズを取り入れるための様々な機会を設定します。日野市の将来像について、様々な声をお聞かせいただければと思います。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
19	ぼくがかよっていたようち園をなくさないでください。☺	自分の考えを教えてください、本当にありがとうございました。 子どもの数が減っている状況や、保護者が求めることの変化に合わせて、第四幼稚園だけでなく、日野市全体を見渡して必要な対策を考えていくことが大事だと思っています。現在の第四幼稚園をそのまま残すことは難しいことですが、ただ減らすだけでなく、保育園や幼稚園を合わせて、たくさんのお友達と遊べるような方法をみんなで一緒に考えていきます。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
20	第四幼稚園に今、下の子が通っています。上の子の時からお世話になっています。上の子は本当は第五幼稚園に行きたかったのですが、1年しか通えない為、第四に行くことになりました。(2年目に閉園)お家から自転車で20分くらいで遠いです。第四の先生はとてもいい先生ばかりで毎日楽しく通っています。あったかい幼稚園です。耐震工事がされていないから閉園することですが、なんとか耐震工事で残していただけないでしょうか？お金がかかることは承知します。四幼をなくしてしまうと今ぶちっこに通っている子も1年しか通えなくなりますし、私立幼稚園に行きたくても行けない子(ことわられた子)が行く幼稚園がありません。その子たちはどうしたらいいのでしょうか？私立をことわられたお母さんは泣いていました。 四幼は誰でもうけいれています。どうか四幼をなくさないで下さい。	貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 市内東側に保育所型認定こども園設置に向けて幼稚園枠を創設することを含め、行き場のない子どもが生じないための方策を講じてまいります。 幼稚園の建て替えや耐震化については、幼稚園設置基準により、園児数に関わらず、現状の第四幼稚園と同規模の園舎、園庭が必要なため、幼児人口の減少や保育ニーズの高まっている状況では、建物の規模が、どうしてもオーバーサペックになってしまうので、別の方策を考える必要があります。 移動支援については、既に第四幼稚園のぶちっこに通っている等、公立幼稚園に通えることを期待する世帯に対し、転園の負担の軽減を含め、選択肢を確保する観点から実施するものです。個別の状況について相談に乗りながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。 第四幼稚園は築後50年が経過し全体に老朽化が進んでいる状況で、仮に耐震化することとなった場合、改築費用には及ばないまでも仮園舎の建設費用を含めた相当の費用負担や、工事期間中の園の運営負担が生じることが考えられます。平成29年に日野市の公共施設の更新・統廃合・長寿化についての方針を定めた「公共施設等総合管理計画」では、市立幼稚園の耐震化について「幼稚園の適正配置・適正数など統合計画を踏まえつつ、継続して使用する場合に耐震化を実施する」という方針を定め、第四幼稚園はこの管理計画の短期目標期間において、日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申の結果、統廃合の可能性が出てきたことから、耐震化の着手を見合わせているものです。ご理解のほどよろしくお願いいたします。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)⑤に移動支援の対象及び内容を追記。
21	ぼくが行ってほしい五ようちえんは無くなってしまったのに妹が行っているだいい四ようちえんまでなくなるのは反対です！ ぼくみたいに妹にもかなしい思いをさせたくないです！	自分の考えを教えてください、本当にありがとうございました。 子どもの数が減っている状況や、保護者が求めることの変化に合わせて、第四幼稚園だけでなく、日野市全体を見渡して必要な対策を考えていくことが大事だと思っています。現在の第四幼稚園をそのまま残すことは難しいことですが、ただ減らすだけでなく、保育園や幼稚園を合わせて、たくさんのお友達と遊べるような方法をみんなで一緒に考えていきます。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
22	こども園の設置はとても良いと思いますが、四幼閉園に対する支援策にはならないです。一番の問題は四幼がなくなると、この地域に私立も含め、幼稚園がなくなってしまうということです。地域に一つも幼稚園がないと、小学校入学前の地域コミュニティがなくなって、孤立する母親が増えて虐待につながる危険性があると思います。 こども園を作るなら、四幼地域に作ってほしいです。設置予定のこども園は規模が小さすぎるし、たいして募集をかけずに四幼からの転園児を放り込んで、2〜3年で終了となる気がします。 こども園に入ったとしても保育園児に囲まれて片身が狭い思いをするのではないかと、期待する園生活が送れないのではないかと不安でいっぱいです。ちゃんとその不安を取り除けられるような説明をお願いしたいです。 また、公立幼稚園(2幼、7幼)への移動支援が2年しかないのは、その場しのぎの支援策としか思えません。とても10年先のことを考えた施策とは思えないので、閉園には反対です。	貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。 市内東側の保育所型認定こども園の設置については、未就学児人口の減少と多様なニーズへの対応に向けて、市の保育サービスの中長期的な視点で必要性があると考えております。設置場所については関係者との調整状況等を踏まえて公表してまいります。 市内東側に保育所型認定こども園設置に向けて幼稚園枠を創設することを含め、行き場のない子どもが生じないための方策を講じてまいります。 私立幼稚園を含めた四小地域の幼稚園枠の選択肢の少なさについては、課題として認識しております。交通手段の確保を含めた私立幼稚園への入園、公立保育園での受け入れの可能性を含め、個別の状況について相談に乗りながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)①に設置場所を「日野市立みさわ保育園」を候補とする等を追記。
23	第四幼稚園は、私がそつ園して、おとうとも来年そつ園します。それと、しよめいでたくさんたくさんがんぼったので、閉園するのはぜったいに反対です！	自分の考えを教えてください、本当にありがとうございました。 子どもの数が減っている状況や、保護者が求めることの変化に合わせて、第四幼稚園だけでなく、日野市全体を見渡して必要な対策を考えていくことが大事だと思っています。現在の第四幼稚園をそのまま残すことは難しいことですが、ただ減らすだけでなく、保育園や幼稚園を合わせて、たくさんのお友達と遊べるような方法をみんなで一緒に考えていきます。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。

ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の適正配置に関する基本方針及び閉園計画(修正素案)のパブリックコメント)

(案)

No.	ご意見 (基本的に 全文 原文ママ。一部 改行、フォント等 の装飾省略、図表の省略 等がございます。 また、「回答」欄の内容が対応するご意見の箇所に項番を追加しています。)	教育委員会の考え方	計画等への反映
24	基本方針への意見 1の(2)に対して一公立園と私立園、運営方法の異なる2つをならべて、公費負担の面だけクローズアップしてあるのはおかしいと思います。 24-① 閉園計画への意見 行き場のない子、“行き場”を探すため疲弊する保護者をつくらないためにも、支援の具体的な内容を明瞭にしてほしいと思います。 「こんな支援がある！」とわからない状態は不安だと思います。 24-②	24-① 適正配置等検討委員会が答申で触れている格差・偏重とは、公立・私立ともに 幼稚園の運営には公費が投入されていますが、公立幼稚園は園児数が少ないため、園児一人あたりの公費負担を比較すると、公立の方が私立よりも大きくなっている、という意味であり、持続可能な公共施設の運営の観点からは、向き合うことが必要なデータであると考えています。 24-② 4月に実施した第四幼稚園保護者説明会、市民説明会において、より具体的な内容についてご説明させていただきました。しかしながら、認定こども園の園名など関係者への説明など調整を行っている最中であり、一部お示しできなかった内容もございます。 お伝えできる内容については最新の情報を適時公表していくとともに、市内東側に幼稚園児の枠をつくる中で、幼稚園教諭を配置する等、保育内容の充実を図ってまいります。 移動支援については、既に第四幼稚園のぶちっこに通っている等、公立幼稚園に通えることを期待する世帯に対し、転園の負担の軽減を含め、選択肢を確保する観点から実施するものです。個別の状況について相談に乗りながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。	市の考え方は左記のとおりです。市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)の「6 閉園に伴い実施する支援策」について、表記を修正いたしました。 6(1)①に設置場所を「日野市立みさわ保育園」を候補とする等を追記。 6(1)⑤に移動支援の対象及び内容を追記。
25	反対反対反対反対反対反対反対反対反対 ※小2の息子が提出したいと言うので提出させていただきます。	自分の考えを教えてください、本当にありがとうございました。 子どもの数が減っている状況や、保護者が求めることの変化に合わせて、第四幼稚園だけでなく、日野市全体を見渡して必要な対策を考えていくことが大事だと思っています。現在の第四幼稚園をそのまま残すことは難しいことですが、ただ減らすだけでなく、保育園や幼稚園を合わせて、たくさんのお友達と遊べるような方法をみんなで一緒に考えていきます。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
26	ぼくは、中休みにようち園生や先生とおしゃべりするのが楽しみです。 四ようの子どもが四小Iに入学していっしょにあそべるのも楽しみにしています。 たくさんの子が四ように来るのをおうえんしています。 四ようをまもってください。	自分の考えを教えてください、本当にありがとうございました。 子どもの数が減っている状況や、保護者が求めることの変化に合わせて、第四幼稚園だけでなく、日野市全体を見渡して必要な対策を考えていくことが大事だと思っています。現在の第四幼稚園をそのまま残すことは難しいことですが、ただ減らすだけでなく、保育園や幼稚園を合わせて、たくさんのお友達と遊べるような方法をみんなで一緒に考えていきます。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
27	私が中学生になったら、母は一中と四小、速くのようち園3つのひなんくんれんと保ご者会に行っても大変です。 私も四小のお兄さんお姉さんのようにようち園のホールに遊園地を作って遊んであげたいです。 しよめい活動もがんばりました。 手がつめなくなるほどがんばりました。 私の弟達を四幼で卒園させてください。	自分の考えを教えてください、本当にありがとうございました。 子どもの数が減っている状況や、保護者が求めることの変化に合わせて、第四幼稚園だけでなく、日野市全体を見渡して必要な対策を考えていくことが大事だと思っています。現在の第四幼稚園をそのまま残すことは難しいことですが、ただ減らすだけでなく、保育園や幼稚園を合わせて、たくさんのお友達と遊べるような方法をみんなで一緒に考えていきます。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
28	4.5 こども園がしっかり出来るまでは、閉園を待ってほしいです。 行き場を作ってほしいのは子どもだけではなく、保護者にも地域でつながれる場所が孤立しない為に必要とされています。日野市東は児童館なども古く赤ちゃんをハイハイさせたくないとの話も聞きます。 私達はどこへ行ってコミュニティーを作ればいいですか？ 5年、10年先は〇〇私立幼稚園はお金持ちの子、〇〇保育園は共働きしないとらない家の子、公立幼稚園は発達に問題がある子と、グループを別ける事になるのでは？と不安でもう少し、こども園と私立園が安心な行き場になるのか時間をかけて検討していただきたいです。	市内東側の保育所型認定こども園の設置については、未就学児人口の減少と多様なニーズへの対応に向けて、市の保育サービスの中長期的な視点で必要性があると考えています。認定こども園設置までの間は、令和7年度から多様な他者との関りの機会の創出事業の活用による教育枠の確保を検討しています。また、代替案となりうる立地については、保育園の場合を参考として、通常の交通手段により、自宅から 20 ～ 30 分未満で登園可能な場所を候補としております。 この保育所型認定こども園の設置にあたっては、多様な子どもが関わり合いながら過ごすことのできる環境づくり等に取り組んでまいります。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
29	私は関西から東京に来ました。 そのころ私は小学2年生だったので第四幼稚園には行きませんでしたが、私の妹が通っていました。 幼稚園の運動会では、私もさん加させてもらいました。 私は、第四幼稚園をなくさないでほしいです。 第四幼稚園にはいい先生がたくさんいて、かわいいカメや、ウサギ、メダカがいます。地いきの人とのこうりゅうも多いです。第四幼稚園がなくなるのはいやだし、自転車で遠くの幼稚園に行かないといけない人が多くなってしまいます。なので、第四幼稚園をなくさないでください。	自分の考えを教えてください、本当にありがとうございました。 子どもの数が減っている状況や、保護者が求めることの変化に合わせて、第四幼稚園だけでなく、日野市全体を見渡して必要な対策を考えていくことが大事だと思っています。現在の第四幼稚園をそのまま残すことは難しいことですが、ただ減らすだけでなく、保育園や幼稚園を合わせて、たくさんのお友達と遊べるような方法をみんなで一緒に考えていきます。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。
30	私は関西から転勤でこちらへ来て、第四幼稚園でお世話になりました。 親子共に友達が出来るかとても不安な中、第四幼稚園はあたたかく迎えて下さりホッとしたのを覚えています。送り迎えの時に園の様子が分かるだけでなく、保護者が集まる行事も多かったので、たくさんの友達が出来ました。 育児の相談も、同じくらの年のお子さんをもつお母さんだからこそ、共感して下さって親身に聞いて下さり、乗り越えることが出来ました。私立だとバスになるので、ここまでたくさんの友達を作るのは出来なかったと思います。又、いつ転勤になるか分からないので、制服等にあまりお金をかけなくて良かったのもありがたかったです。 そして転勤の時期によっては私立を断られることもあります。以前、願書を私立幼稚園に持って行った時、「こんなギリギリに提出しに来られたのはどうしてですか？本当に入園したいと思っていらっしゃるのですか？」と冷たく言われました。 抽選で落ちたらどこへ行けば良いのでしょうか。前は市立の幼稚園があったのでそこに行けたのですが、第四幼稚園がなくなると皆さん困るのではないかと思います。速くまで通うのが難しいご家庭もあると思いますし、電動自転車があっても危険な道はないのか心配になります。障害などがあって周りの理解が必要なお子さんは特に家の近くの幼稚園で、近所のお友達を作って、あたたかく見守られながら過ごす場所が必要ではないかと思います。 よろしくお願い致します。	貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。市内東側に保育所型認定こども園設置に向けて幼稚園枠を創設することを含め、行き場のない子どもが生じないための方策を講じてまいります。 私立幼稚園を含めた四小地域の幼稚園枠の選択肢の少なさについては、課題として認識しております。交通手段の確保を含めた私立幼稚園への入園、公立保育園での受け入れの可能性を含め、個別の状況について相談に乗りながら、行き場のない子どもが生じないよう取り組んでまいります。	市の考え方は左記のとおりです。ご意見として承り、計画等への反映はございません。

議案第18号

日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針について

上記議案を提出する。

令和6年6月30日 提出

日野市教育委員会
教育長 堀川 拓郎

《提案理由》
市立幼稚園の適正配置に関する基本方針を策定するものです。

(案)

日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針

このことについて、日野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会（以下「適配委員会」という。）から令和3年11月19日付けで提出された「日野市立学校適正規模、適正配置等について（答申）」（以下「答申」という。）を尊重し、下記のとおり基本方針を策定する。

令和 年 月 日

日野市教育委員会

記

はじめに

公立幼稚園は幼児人口の急増期に私立幼稚園の補完的役割として設置されてきた。その後、少子化に伴う幼児人口の減少に合わせて公立幼稚園の統合を行ってきており、直近では「日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針（平成30年9月13日策定）」に基づく第五幼稚園と第四幼稚園の統合が、令和3年3月末に完了している。

しかしながら近年、日野市の幼児人口は中長期的には減少が続き、保育園等の希望者は増加しているものの、公立・私立幼稚園ともに在籍園児数の減少並びに定員割れが課題となっている。

令和3年7月に教育委員会はこのような現状を踏まえて、今後の幼児教育のあり方とともに、公立幼稚園の適正な配置について諮問した。適配委員会は日野市における幼児教育や公立幼稚園のあり方につき幅広くテーマを広げ、時に私立幼稚園の置かれている状況や経営的視点に立ち、5回の議論を経て、これらの課題に対する望ましいあり方について答申を行った。

この答申の趣旨を尊重し、令和4年8月15日に「日野市立学校

適正規模、適正配置等の基本方針（素案）」（以下「素案」という。）を取りまとめた。その後、素案に対して市民から多くの意見をいただいたことから、同年 10 月 29 日に教育委員会臨時会にて取りまとめた素案の修正案の骨子、および令和 5 年 12 月に日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会（以下「在り方検委員会」という。）によって取りまとめられた「日野市らしい幼児教育・保育の在り方に関する検討結果報告書」（以下「報告書」という）を踏まえ、公立幼稚園の適正配置等についての基本方針は以下のとおりとする。

1 公立幼稚園の適正配置について

答申では、「公立幼稚園はこれまで就学前の幼児教育においてセンター的役割を果たしてきた」ことや、「子どもを取り巻く環境の変化とともに、その時代に即した教育の質をアップデートしながら幼児教育を提供してきたことに功績がある」ことについて言及しており、公立幼稚園は欠くことのできないものとしている。その上で、

（１）子育てニーズの多様化や幼児人口の減少においては、その傾向が今後も継続するものと考えられ、公立幼稚園の入園希望者の人数の今後を想定すると 3 園を維持継続していくことは適正数とは考えにくい。

（２）私立幼稚園との比較検討において園児一人あたりにかかる公費負担につき、格差・偏重が生じている。

（３）一部に老朽化が著しく進む園舎があり、今後、幼児教育にふさわしい適切な環境整備が必要である。

（４）特に 1 学級あたり園児数が少ない公立幼稚園においては、幼児期の発達段階において集団性と協同性の芽生えを育む観点から、一定数の望ましい学級人数が求められる。

として、「今後の公立幼稚園の運営にあたっては、中長期的な視点に立ち選択と集中を進めていくべき」「公立幼稚園数は 1 園減じることが妥当」としている。

同答申を踏まえ、特に公立幼稚園の入園希望者数の減少や、集団性と協同性の芽生えを育む上での望ましい学級人数等の観点から、公立幼稚園の重要性を踏まえたとしても公立幼稚園の縮減はやむ

を得ないものとする。

また、答申では「第四幼稚園を適正配置の対象とした上で、他の公立幼稚園と統合することが望ましいと判断する。」としている。

園舎の老朽化などを踏まえると、第四幼稚園を閉園することが妥当である。ただし、素案の修正案の骨子を踏まえて、行き場のない子どもが生じないための方策を併せて実施することが必要である。

これらを踏まえ、令和7年度末（2026年3月31日）をもって第四幼稚園を閉園とする計画を策定する。

2 日野市らしい幼児教育、公立幼稚園のあり方

答申では「今後の幼児教育や公立幼稚園のあり方については、より議論を深めるためには、別途会議体などを構成の上、日野市らしい幼児教育や公立幼稚園のあり方の検討を推進されたい」との意見が付された。

これを踏まえ、幼保小連携の更なる推進と多様性に応じた学びの充実を目的とした在り方検討委員会を立ち上げ、学識経験者、公立及び私立の幼稚園・保育園、公立小学校、市民委員が、これまで日野市が全国でも先進的に取り組んできた幼保小連携の取り組みなどを継続・推進しつつ、多様性に応じた学びの充実を図るとともに、設置主体（公私）や施設類型（幼稚園、保育園、認定子ども園）にとらわれず、幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進するためのセンター的な機能を果たしていくなど、日野市らしい幼児教育の在り方について、令和5年2月から12月まで7回にわたる議論を重ね、報告書が取りまとめられた。

3 おわりに

答申ではこれまで公立幼稚園が、幼児教育や、就学前教育と小学校教育との接続において果たしてきた役割が評価されている。また、答申を踏まえて設置した在り方検討委員会において、日野市における幼児教育・保育における課題と、それに対する市が取り組むべき方策や方向性が議論されて報告書として取りまとめられている。今後、令和5年4月に立ち上げた教育委員会と子ども部を横断する幼

児教育・保育連携推進プロジェクトチームが中心となり、この報告書を踏まえて日野市らしい幼児教育・保育のさらなる充実を目指した取り組みを推進していく。

なお、本基本方針に基づく公立幼稚園の適正配置に際しては保護者や市民に丁寧な説明を行い、適確に進めていく。

議案第19号

市立幼稚園閉園計画について

上記議案を提出する。

令和6年6月30日 提出

日野市教育委員会
教育長 堀川 拓郎

《提案理由》

日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針に基づき、市立幼稚園閉園計画を策定するものです。

(案)

令和 年 月 日

市立幼稚園閉園計画（第四幼稚園）

日野市教育委員会

1 幼稚園閉園計画の背景と経過

昭和40年代の幼児人口の急増期、私立幼稚園の収容人数を超えた幼児を受け入れるために私立幼稚園の補完的役割として公立幼稚園は設置されてきた。幼児人口は昭和50年の16,781人をピークに減少に転じ、平成9年にはピーク時の半数程度の8,672人となり、公立、私立幼稚園の双方が定員割れとなっていた。

教育委員会はこの状況を改善するため、条例により設置された日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会の答申（第1次答申：平成10年、第2次答申：平成11年）を基に平成12年に公立幼稚園の適正配置に関する基本方針を策定し、平成14年に第五、第六幼稚園を統合、平成17年に第一、第七幼稚園の統合を行った。

近年、共働き世帯の増加や家庭環境の多様化により子どもを長時間預けられる保育園等を希望する保護者の増加に伴って、公立幼稚園・私立幼稚園の定員割れの状況が拡大している。

このような状況の中で、前述の基本方針に定められた第三幼稚園と第四幼稚園の統合を平成29年4月に行い、更には令和3年4月に第五幼稚園と第四幼稚園の併合を行ったものの、公立幼稚園の欠員には未だに増加傾向が見られるため、公立幼稚園の適正配置の検討が必要となってきた。

教育委員会は令和3年7月に日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会に公立幼稚園の適正配置について諮問し、同年11月にその答申を得た。この答申を尊重し、教育委員会は、「答申を踏まえ、特に公立幼稚園の入園希望者数の減少や、集団性と協同性の芽生えを育む上での望ましい学級人数等の観点から、公立幼稚園の重要性を踏まえたとしても公立幼稚園の縮減はやむを得ないものとする。」「園舎の老朽化などを踏まえると、第四幼稚園を閉園することが妥当である。」と閉園に関する基本方針（修正素案）を策定した。本計画は、この方針に基づく閉園の基本的な事項を定めるものである。

2 目的

教育委員会が策定する「日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針（修正素案）」に基づき、閉園の基本的な事項を定めることを目的とする。

3 実施内容

第四幼稚園を閉園する。ただし、行き場のない子どもが生じないための方策を併せて実施する。

4 閉園実施日

令和8年（2026年）3月31日

5 第四幼稚園の園児募集

令和7年度（2025年度）入園児募集

（令和6年度（2024年度）11月実施）

- ・5歳児の園児募集あり。
- ・4歳児の園児募集あり（※）。

※5歳児クラスに進級する際に転園が必要となるため、転園に伴う支援策を実施する。また、特に特別な配慮を必要とする幼児に対しては、転園の際の負荷を考慮した支援策を講じる。

6 閉園に伴い実施する支援策

（1）閉園に伴い実施する支援策

基本方針にも示した通り、幼保小連携の更なる推進と多様性に応じた学びの充実を目的とした日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会（以下、「在り方検討委員会」という。）において、7回にわたる議論を重ね、報告書がとりまとめられた。これを踏まえ、第四幼稚園の閉園にあたっては、行き場のない子どもが生じないよう、以下の支援策を実施する。

①市内東側に保育所型認定こども園を設置

設置場所は「日野市立みさわ保育園」を候補とする。その上で、保育所型認定こども園が設置されるまでの間は、既に第四幼稚園のぶちっこ（未就園児の日）に通っている幼児等を対象に、同保育園において、東京都が実施する「多様な他者との関わりの機会の創出事業」等を活用して教育卒を確保する。

②市内東側に特別な配慮を必要とする幼児の相談機能を創設

まんがんじ児童館でエールが出張心理相談をできる体制を整備（令和8年度より開始予定）。

③私立幼稚園における特別な配慮を必要とする幼児受け入れ拡充のための支援

特別な配慮を要するお子さんを受け入れた場合で、東京都からの補助対象外となる年度途中の入園児については、市が単独で追加補助（令和6年度より開始）。

④就園相談機能（コンシェルジュ機能）の強化

幼稚園長経験者の幼児教育・保育アドバイザーを新たに学務課に一名配置して、個別の相談に対応（令和6年度より開始）。

⑤既に第四幼稚園のぷちっこ（未就園児の日）に通っている幼児等が通う園を確保するための移動支援等

- ・自家用車での送迎を許可するとともにガソリン代を支給（支給対象は自宅から公立（第二もしくは第七）幼稚園まで一定以上の距離があることを条件とする）。
- ・自家用車がご利用できない方用に、タクシー送迎等を実施。

（2）日野市らしい幼児教育・保育の在り方に関する検討結果

上記の閉園に伴い実施する支援策と合わせ、在り方検討委員会の報告書に記されている以下の項目については、幼児教育・保育連携推進プロジェクトチームが中心となり、日野市らしい幼児教育の具現化を目指し取組を進めていく。

参考：以下「在り方検討委員会」の報告書より抜粋

1. 幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続に関すること

(1)幼児教育・保育連携推進 PT の取組充実

- ①横断的な課題について共有・意見交換を行う場や研修の場の設定
- ②アドバイザーによる保護者への情報提供、小学校に対する次年度のスタートカリキュラム策定支援など
- ③かけはし期に関する取組事例や、安心して小学校に入学できるようにするための参考資料の作成

(2)近隣に所在する園・学校の連携の充実

2. 特別な配慮を要する子ども、外国人等への支援に関すること

(1)子どもや園に対する支援の充実

- ①市の巡回支援の充実（保育カウンセラー等）
- ②園内での支援体制の構築支援

(2)幼児教育・保育連携推進 PT の取組充実

- ①支援児の受け入れや対応に関する情報交換・研修の充実
- ②合理的配慮や環境整備に係る具体的な対応に関する事例集・参考資料の作成

(3)特別支援に関する保護者等への相談機能の充実

3. 公立幼稚園の在り方など日野市らしい幼児教育・保育の実現に向けた方策に関すること

(1)公立幼稚園の今後の在り方

- ①未就園児の柔軟かつ定期的な受け入れ等の検討
- ②保護者への支援充実（放課後の預かり充実等）

(2)障害のある幼児も含め行き場のない子どもが生じないための方策

- ①保育所型認定こども園等の検討（保育園・幼稚園）
- ②私立幼稚園における受け入れ拡充に向けた支援の検討
- ③児童館等を利用した特別支援に関する相談機能の充実の検討

7 計画の推進

本計画を円滑に進めるため、園側との緊密な連携のもと、在園児の保護者・地域住民に丁寧な説明を行い、理解と協力を得ながら計画の推進を図っていくこととする。

議案第 20 号

教育委員会職員の分限休職の専決処分について

上記議案を提出する。

令和 6 年 6 月 30 日 提出

日野市教育委員会
教育長 堀川 拓郎

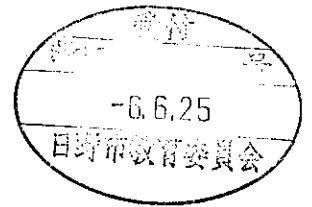
《提案理由》

教育委員会職員に対する地方公務員法第 28 条第 2 項第 1 号による分限休職の発令について、教育委員会に諮る時間的余裕がありませんでした。そのため教育長専決により分限休職の発令を行いましたので、報告し承認を求めるものです。

非公開

請願審査

請 願 番 号	請願第6－4号
受 付 年月日	令和6年6月25日
件 名	『日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針』および『市立幼稚園閉園計画（第四幼稚園）』を確定しないことを求める請願
請願者 住 所 氏 名	



日野市教育委員会
教育長 堀川 拓郎 様

『日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針』および
『市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)』を確定しないことを求める請願

令和6年6月25日

《請願代表者》

住所

氏名

(自署しない場合は、押印が必要)

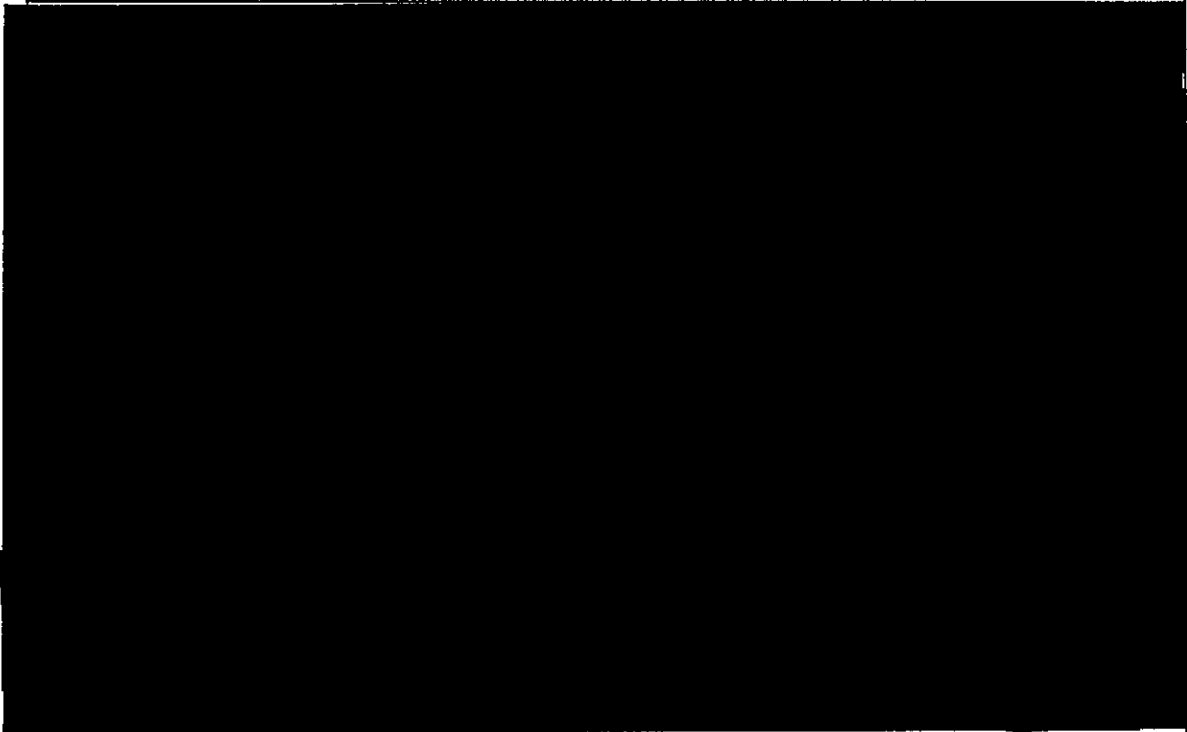
他 9 名
(市内 9 名、市外 0 名)

連絡先 (電話番号)

署名簿

『日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針』 および
『市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)』を確定しないことを求める請願
上記請願の要旨、請願事項に同意しましたので、ここに署名いたします。

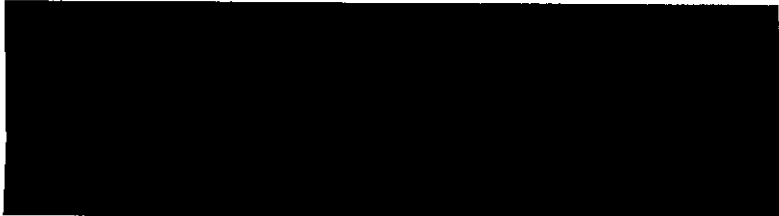
(自署しない場合は押印が必要)

住所	氏名
	

請願代表者

住所

氏名



請願の要旨

修正素案に示された『閉園に伴い実施する支援策』については、令和6年2月7日に概要説明があり、2月28日に子ども園の規模などの詳細説明があり、そこから質疑応答が始まりました。

3月12日に一部の回答がありましたが、ご回答いただいていない項目や、まだ検討中の事項などもあったため、ここから合意に向けて、丁寧に説明していただけるものと信じていました。

ところが、3月18日に教育長が来園され、話し合いの回数は十分であり、検討も十分したので、これ以上はきりが無い。この支援策で令和7年度末に閉園する内容の修正素案を次の定例会で協議し、賛成されれば確定すると宣言され、大変驚きました。これまで学務課の方々と対話を重ね、少しずつ築いてきた信頼関係も再度壊された気持ちになり、憤りも感じました。

支援策に対する質疑応答が始まったばかりであることから、私たち保護者としては、まだ合意に至る状況ではないとお伝えしましたが受け入れられず、3月23日の教育委員会定例会(宣言から6日しかなかったため保護者からは請願も意見表明も出来ない状態)で協議され、修正素案が決まってしまうしました。

日野市議会第2回定例会の一般質問等も拝見させていただきましたが、「誰一人取り残さない」ことについての質問に対し、教育長は、行き場のない子どもを生じさせないための思いについて答弁されるのではなく、「誰一人取り残さない」という言葉を使わないことへの思いに重きを置いた答弁をされており、非常に残念に思うとともに、保護者の不安はさらに大きくなりました。

また、教育長は説明会や答弁等で「全員が納得するまでというのは難しい」とおっしゃっていましたが、話し合いに参加した保護者は、全員どころか誰も納得していません。これが教育委員会の考える『丁寧な説明を行い、理解と協力を得ながら計画の推進を図っていく』ことなのでしょうか？

納得させられない、と強行するのではなく、合意を作り上げる姿勢を見せていただきたいです。

また、素案に対し多くの市民からの反対があったにも関わらず、取り下げずに修正とした理由について、教育委員会は「答申を尊重する必要があるため削除は出来ない」と説明していましたが、「公立幼稚園数を1園減ずる」「四幼を適対対象とする」以外については、教育委員会の判断で答申内容から変更ないし削除(*1)しており、答申の本旨はむしろ尊重されていないと感じます。

*1：答申で四幼が適対対象とされた大きな理由の一つであった浸水想定区域について修正素案で削除。閉園する園は他の園と統合することが望ましいとされているが、素案の段階で近くに公立園がないという理由で閉園(統合の場合行き先があるが閉園の場合は行き先がない、似て非なるもの)に変更。さらに、第二幼稚園・第七幼稚園の2園を中心に今後の公立幼稚園の体制を継続すること(答申では「公立幼稚園数を1園減ずる」ではなく「公立幼稚園がかけがえの存在であることを鑑み、公立幼稚園数を1園減ずる」としているため、公立幼稚園数2園を維持することは重要課題)についての記載を事前の報告や説明もなく修正素案で削除、など。

私たちは、行き場のない子どもが生じないためには、下記の問題があると考え、保護者との合意に至るまで、素案を決定しないことを強く求めます。

- ・ 該当園の子ども園化がまだ正式な計画になっておらず、場所や規模が公表できない状態であり、実現性や継続性も明確でないこと。
- ・ 子ども園の前提となる幼稚園クラスの開始予定は、現3歳児がプレ入園できない時期であり、子どもに合うかどうかの判断を保護者が事前にできないこと。(子どもの育ちの観点から鑑みると、最低でも計画の公表から5年の猶予は必要。)
- ・ 移動支援の詳細が検討中であり、明確でないこと。
- ・ 子ども園の場所は、四幼がなくなること(私立公立あわせても)幼稚園がなくなる空白地域ではなく、その地域の中心からも離れているため、子ども園と反対方向の家庭の子どもが通える施設について検討されていないこと。(現在、検討されている移動支援は適用範囲や期間が限定的であるため、将来的にこの地域で生まれ育つ子どもへの支援にはならない。)

請願事項

1. 保護者との合意に至るまで、『日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針』および『市立幼稚園閉園計画(第四幼稚園)』を確定させないこと。
2. 答申の本旨を尊重し、公立幼稚園が量的補完的役割からの転換を図り、日野市らしい幼児教育の具現化に向けた「良質な教育・保育の推進的役割」を果たせるよう、公立幼稚園をどうしていくかの方針を具体的に定めること。